



# 兵庫県養父市

## 第2期基本計画

# 養父市まちづくり計画

第3次養父市総合計画／第2期まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略





## あいさつ

養父市では、令和3年10月に策定した「養父市まちづくり計画・第1期基本計画」の基本構想において、「やぶ2050～居空間構想～」を掲げ、「居心地がよい」「住み続けたい」と感じられる場や空間を育むことにより、持続可能な養父市を目指してまいりました。

この間、養父市最大の課題ともいえる人口減少問題に果敢に挑戦してきましたが、人口減少の波を止めることはできず、出生数や婚姻数、転入者数といった人口減少対策に関する項目は、いずれも目標を下回ってしまいました。

一方、「自分らしい暮らしがあると思う人の割合」「子育てを支えてもらっていると感じる親の割合」など「居心地がよい」「住み続けたい」と思えるまちづくりに関連する項目では、目標を上回ることができています。

これらの検証結果を踏まえつつ、毎年実施している市民アンケートの中から市民の関心の高い4つのテーマを選んだ上で、ワークショップ形式のタウンミーティングを開催し、いただいたご意見を反映しながら第2期基本計画の策定を進めていきました。

本計画は、「やぶ2050～居空間構想～」への架け橋として、2030年までの具体的なまちづくりの方向性を示しています。「市民」「地域」「公共」の取り組むべき3つの柱の考え方をベースに、「6つの政策」に基づく主要施策を展開し、「“伝える”から“伝わる”情報発信」により、市民の皆さまの理解と共感を得ながら施策の効果を最大化してまいります。

私たちの使命は、次世代に「住み続けたい」「訪れたい」と思われる養父市を残すことです。「豊かで持続可能なスマートヴィレッジの共創」を目指し、自立性と独自の魅力を磨き上げることで「養父市らしさ」を守りつつ、この地ならではの価値を創出し、第1期基本計画で築いた基盤を生かして、安心して生きがいを持って暮らせる環境を構築してまいります。

本計画の策定に当たり、慎重かつ熱心なご審議をいただきました養父市まちづくり計画評価検証委員会の皆さまを始め、市民アンケート、タウンミーティング、パブリックコメント等により貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆さま、慎重なご審議をいただいた市議会に対し、心から感謝申し上げます。今後も市民の皆さまや関係機関とともに、「居空間」実現へ着実に歩みを進めてまいります。



令和8年4月

養父市長 大林 賢一

# 目次

はじめに .....	1
1 養父市まちづくり計画について .....	2
1-1 まちづくり計画策定の趣旨 .....	2
1-2 まちづくり計画が目指す姿 .....	3
1-3 まちづくり計画の構成と期間 .....	4
2 2050年の姿を見据えた計画の展開イメージ .....	6
基本構想 .....	7
1 「やぶ2050 ～居空間構想～」の実現に向けた挑戦！ .....	8
2 「将来希望人口」と「つながり人口」 .....	10
2-1 将来希望人口 .....	10
2-2 つながり人口 .....	10
3 2030年の養父市 .....	11
3-1 将来像 .....	11
3-2 将来像を実現する3つの柱 .....	12
3-3 3つの柱を成長させる6つの政策 .....	12
第2期基本計画 .....	13
1 基本計画の体系 .....	14
2 第2期基本計画に記載する項目 .....	23
2-1 目指す姿 .....	23
2-2 目標とする指標 .....	23
2-3 市の主な取組 .....	23
2-4 タウンミーティング等における市民意見（みんなができること） .....	23
2-5 SDGs .....	24
政策1 みんなが支える教育・子育て環境のまち .....	26
1-1 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成 .....	27
1-2 特色のある学校教育の推進 .....	28
1-3 学校教育環境の整備充実 .....	29
1-4 つながりが支える子育て環境 .....	30
1-5 市民文化の創造の促進 .....	31
1-6 図書館機能の充実 .....	32
政策2 つながりが織りなす安全安心で笑顔があふれるまち .....	34
2-1 公民館活動の充実 .....	35
2-2 ライフデザインを描き充実した暮らしの実現 .....	36
2-3 災害に強いまちづくりの推進 .....	38
2-4 安全安心な暮らしを守る対策 .....	39

<b>政策3</b>	誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち	40
3-1	安心できる地域医療の確保	41
3-2	健康・体力づくりの推進	42
3-3	地域福祉の充実	43
3-4	介護予防の充実と介護保険制度の円滑な運営	45
3-5	社会的処方への推進	46
<b>政策4</b>	地域資源の活用や創意工夫により 働く人がキラリと光る挑戦しやすいまち	48
4-1	力強い農業経営の実現	49
4-2	農産物のブランド力の向上	51
4-3	有害鳥獣対策の推進	52
4-4	林業活性化の推進	53
4-5	商工振興と雇用創出の推進	54
4-6	観光振興の推進	55
4-7	創意工夫によるふるさと納税の推進	56
4-8	外部人材の登用	57
<b>政策5</b>	ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち	58
5-1	計画的な土地利用の実現	59
5-2	公共交通の充実	60
5-3	道路管理の徹底	61
5-4	計画的な地籍調査の実施	62
5-5	上下水道事業の充実	63
5-6	環境にやさしいまちの推進	64
<b>政策6</b>	参画と協働で進める行政経営のまち	66
6-1	協働のまちづくりの確立	67
6-2	ICTの利活用による市民サービスの向上	68
6-3	健全で効率的な行財政運営の実施	69
6-4	選挙の適正な執行と投票機会の確保	70
6-5	市税の適正な賦課徴収	71
6-6	情報の発信	72
	<b>計画推進体制について</b>	<b>73</b>
1	戦略的な事業実施体制の構築	74
2	取組内容を評価するプロセスの構築	75
	<b>資料編</b>	<b>78</b>
資料1	養父市まちづくり計画・第1期基本計画の評価	79
資料2	養父市の特徴	82
資料3	市民の意向・ニーズ	88
資料4	養父市を取り巻く状況の変化と課題	98
資料5	用語解説	101



はじめに





# 1 養父市まちづくり計画について

「第3次養父市総合計画」に当たる本計画について、地方創生を目的として策定された「まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略」と一体化し、より一層強力で推進することとします。また、名称についても新たに「養父市まちづくり計画」と呼ぶこととしました。

## 1-1 まちづくり計画策定の趣旨

### 合併後の行政基盤の確立

養父市は、平成16年4月、将来への夢と希望を抱き、八鹿町、養父町、大屋町、関宮町の4町が合併し、新しい市として誕生しました。合併前の平成15年には新市まちづくり計画を、合併後の平成18年には第1次養父市総合計画を策定し、4町が合併して誕生した養父市が安定した行政運営ができるように土台を形作りました。

また、平成21年には、養父市のまちづくりに関する基本的な事項や行政、議会、市民のそれぞれの役割を記した養父市まちづくり基本条例を制定し、市民、団体、企業、行政など養父市に関わる全ての人々が協働によってまちづくりを行っていくためのルールと理念ができました。

平成26年には、国家戦略特別区域に指定されたことにより、多様な農業の担い手の確保や、耕作放棄地の解消、6次産業化の推進のほか農業分野以外でも自家用有償観光旅客等運送事業（愛称：やぶくる）の運行を始めるなど先頭に立って規制改革を進めてきました。

### 暮らしに向き合い課題に向き合う

平成30年には、養父市のまちづくりが創生期から成長期へと推移していく中で、市が目指すべきまちの姿を宣言し、市民、議会および市が実現に向けて協働していくことを目的として、養父市日本一へのまちづくり宣言条例を制定し、「日本一農業をしやすいまち」を目指すための国家戦略特区を活用した取組、「日本一子育てしやすいまち」を目指すために妊娠、出産、子育て期における切れ目のない子育て支援の実施、「日本一福祉が充実したまち」を目指すために薬の処方のように地域の活動や人々のつながりを処方する社会的処方の導入など多くの成果を挙げてきました。

### 深刻化する課題群への対応

しかし、これらの成果を挙げているにもかかわらず、過疎化や少子化・高齢化による人口減少は進行し続けています。

また、度重なる自然災害に対して広大な市域の安全安心を守っていくために必要な災害対策や老朽化するインフラ施設の整備など、養父市では様々な課題を抱えています。

世界に目を向けると、各地で起こる紛争によりエネルギー価格や食料価格が高騰し、日本では円安の進行が物価上昇に拍車をかけるなど市民の日常生活を圧迫するだけでなく、公共事業費の増大や賃金高騰などによりあらゆる行政コストを増加させています。

さらに、コロナ禍によって社会全体で急速なデジタル化が進められました。オンライン化に始まりAI、5G等の先端技術の発展やキャッシュレス決済の広がりなど避けて通れない大きな潮流となっています。

## 持続可能な養父のまちづくりのために

このような時代においても、潮流に的確に対応し、将来に向けて持続可能な発展を遂げていくためには、養父市の直面する様々な課題に対し、行政だけでなく市民一人ひとりが自分ごととして共に考え、行動していくことが重要です。

養父市まちづくり計画の後期計画である第2期基本計画は、これら養父市の課題と変革期を迎えた時代に対応する道筋を示したものであり、長期的展望に立って養父市を運営する計画とします。

## 1-2 まちづくり計画が目指す姿

### まちづくりの系譜を踏まえ未来を展望

本計画は、養父市でのまちづくりを進める上で全ての施策や事業の基本的な方向性を示すものです。

まちづくりには息の長い取組が必要です。そこで養父市まちづくり計画では、2050年の養父市の姿を見据えた上で、具体的な取組が想定できる2030年を対象に養父市の姿を描き、その実現に向けた基本計画や施策を体系的にまとめています。

養父市まちづくり計画では、養父市のまちづくりのルールである「養父市まちづくり基本条例」（平成21年）や国家戦略特区・地方創生に市を挙げて取り組むために制定された「養父市日本一へのまちづくり宣言条例」（平成30年）の趣旨を踏まえた内容としています。

### 地方創生の取組をまちづくりの中核に

国では、東京圏への一極集中や地方の人口減少などに対応するため、地方創生に向けた取組が進められてきました。

従来の地方創生は人口減少の抑制や企業誘致など、量的拡大を主眼として取り組まれてきました。しかし、現在の地方創生では、人口増加そのものにとらわれず、地域の強みや資源を生かしながら、地域課題の解決と新たな価値創出を両立させることが求められています。

複雑、多様化する課題に市を挙げて取り組むために、これまでの地方創生の取組の中で議論されてきたことをこれからの養父市のまちづくりの中核に据え、自分ごととして取り組むことが必要です。

### 総合計画と地方版総合戦略の一体化

養父市の総合的な振興・発展のための長期計画として策定していた「第2次養父市総合計画」（平成23年）と、地方創生を目的として策定していた「まち・ひと・しごと・ふるさと養父市創生総合戦略」（平成27年）を一体化した計画を策定することで、まちづくりを一層強力に推進します。また、それぞれの計画において整理されていた施策の方向性についても一体的にPDCAサイクルに基づく効果検証を行うことによって、より効果的な取組の推進を図ります。

### 市民と共に歩む10年間の行動指針

まちづくりに向けた取組では、行政と市民がどのように協働するのか、そして何を実現するのかをあらかじめ共有しておくことが大切です。

この計画は、そのための“行動指針”であり、その達成状況を測るための“ものさし”の役割となることを期待しています。



## 1-3 まちづくり計画の構成と期間

### 4つの計画で構成

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」「個別計画」の4つの計画で構成します。それぞれの役割は次のとおりです。

#### 基本構想

基本構想は、今後の養父市のまちづくりの基本となるもので、目指すべき養父市の姿を描き、広く共有するものです。本計画では、2050年の養父市の姿を示しつつ、2030年の目指すべき将来像を提示します。

#### 基本計画

基本計画は、基本構想に掲げた将来像を実現するための施策を体系的に示したものです。2030年に向けて取り組むべき6つの「政策」と各政策に紐づく「主要施策」、これら全てに関連する考え方として「横断的行動指針」の3つで構成されています。

また、基本計画に具体性を持たせるために政策に数値目標を、主要施策にKPI（重要業績評価指標）を設定します。この数値目標については、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」としての位置付けを明確にするためにも活用します。

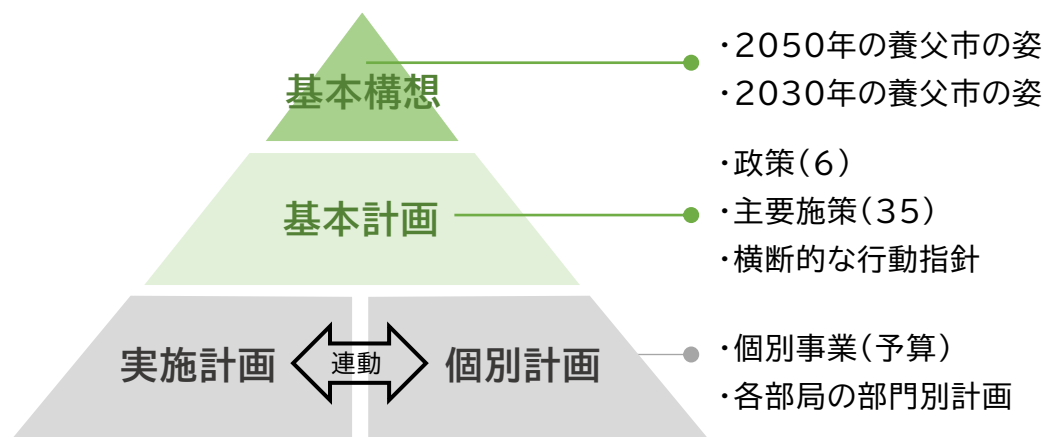
#### 実施計画

実施計画は、本計画に掲げた基本構想および基本計画を実現するための個別事業を明らかにするものです。

市を取り巻く環境の変化を踏まえ、事業の優先度や財政状況などを考慮して、毎年度の予算や各部局が策定する個別計画と連動する形で計画を策定していきます。

#### 個別計画

個別計画は、各分野における取組を着実に推進していくために、それぞれの分野の実情に応じて、その具体的な取組内容を記載した計画・方針・指針などを定めたものです。基本構想や基本計画に記載された内容を踏まえて、対象となる分野の目指すべき方向性を掲げ、その実現に向けたより具体的な取組などを明らかにするもので、各部局がそれぞれ策定していきます。



※本書では、「基本構想」と「基本計画」について記載

## 計画の期間

本計画の「基本構想」「基本計画」「実施計画」「個別計画」について、適切に実施していくために、それぞれに計画期間を設けます。

## 基本構想

基本構想は、2050年の養父市の姿（まちづくりのコンセプト）を見据えて、2030年ごろの目指すべき養父市の姿を実現することを目的とします。

そのため、基本構想の計画期間としては、2021年度（令和3年度）から2030年度（令和12年度）までの10年間とします。

## 基本計画

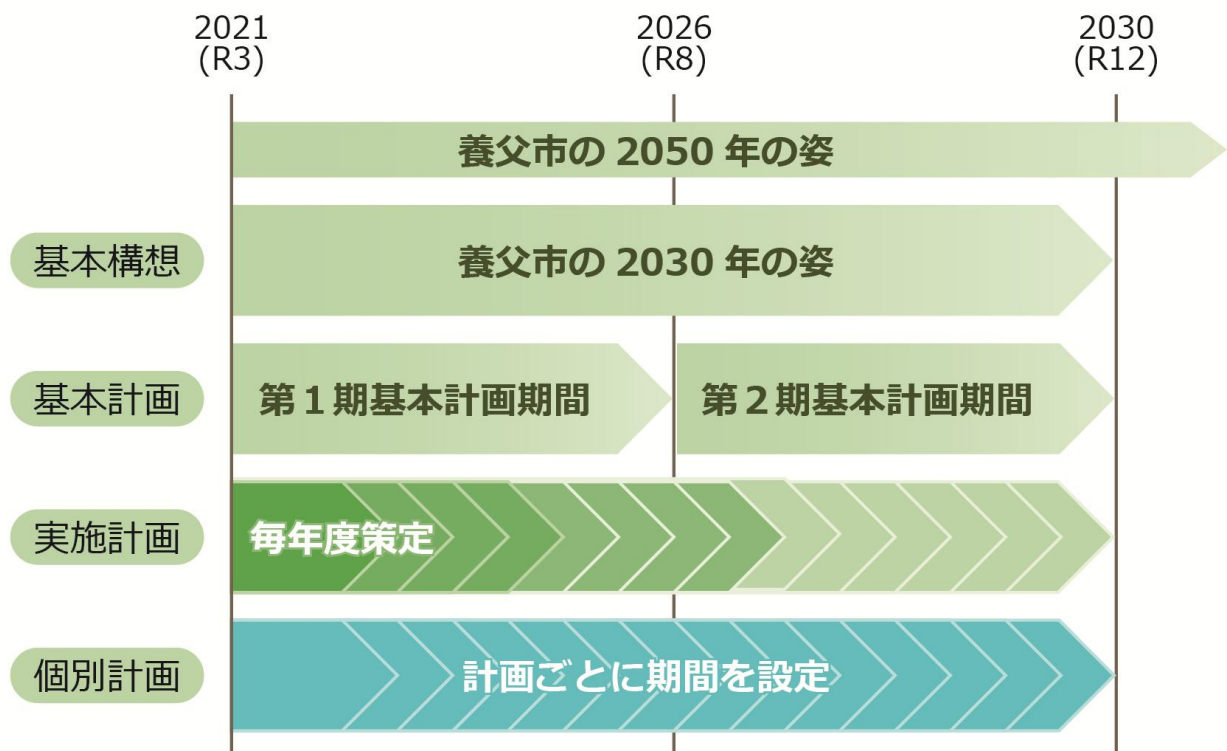
基本計画は、2021年度（令和3年度）から2025年度（令和7年度）までの5年間で「第1期基本計画期間」、2026年度（令和8年度）から2030年度（令和12年度）までの5年間で「第2期基本計画期間」とします。

## 実施計画

実施計画は、毎年度の予算編成と連動して策定していきます。

## 個別計画

個別計画は、それぞれの部局が策定し、計画ごとに期間が異なります。

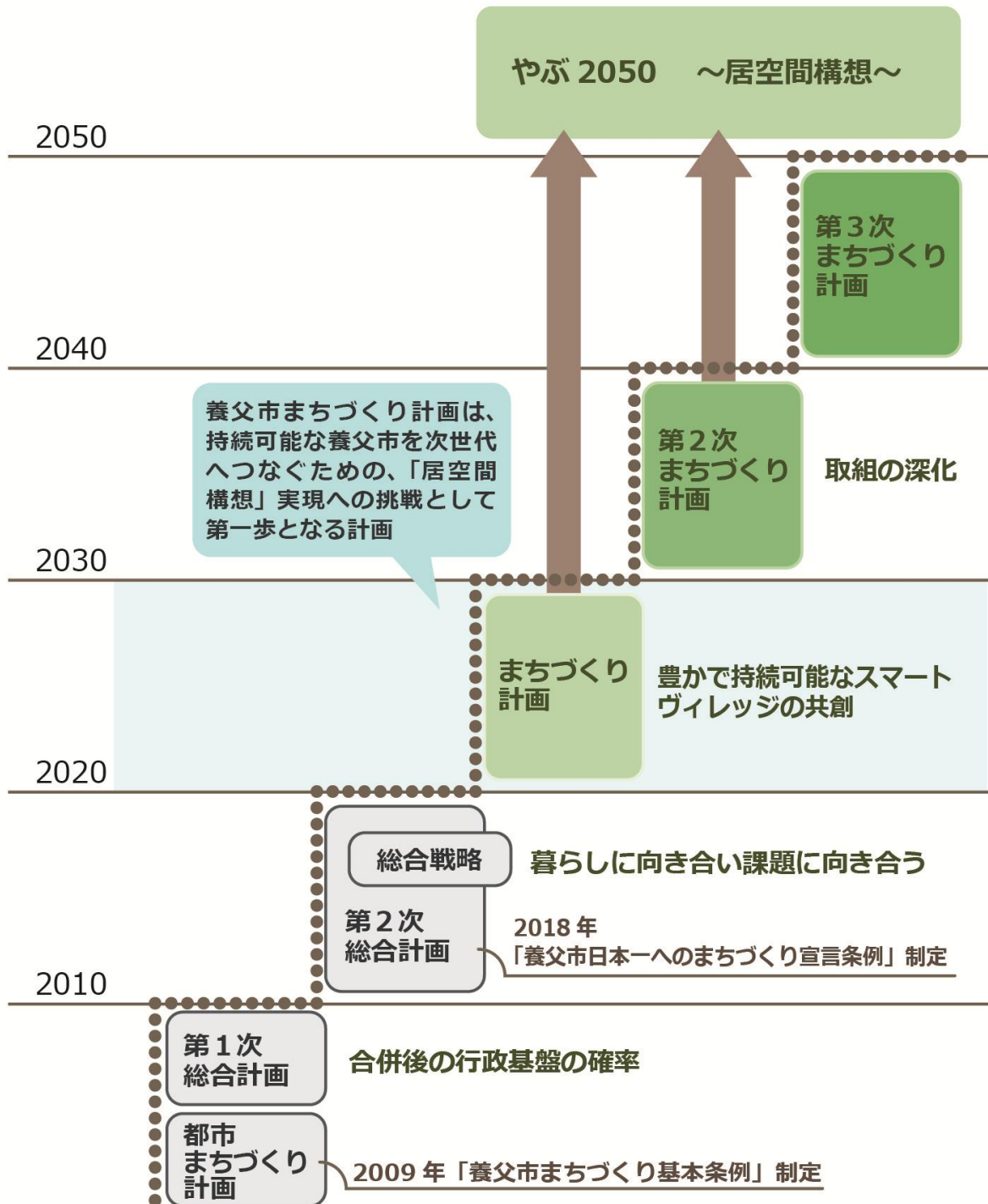




## 2 2050年の姿を見据えた計画の展開イメージ

### やぶ 2050 ～居空間構想～の実現に向けた展開イメージ

- ・25年後の養父市デザインを「やぶ 2050 ～居空間構想～」としてその実現を目指します。
- ・達成目標である2050年までに、10年ごとにあと2回、まちづくり計画が策定されることとなります。「やぶ 2050 ～居空間構想～」を実現するための多様な道筋を市民、企業、養父市とのつながりを持つ人々と共に考え、将来にわたって活力のある自立したまちの実現を図ります。



※詳細の内容については後述

# 基本構想





10年、20年よりももっと先の未来の養父市デザイン

## やぶ 2050 ～居空間構想～ (社会変革を生み出す新たな結の創出)

養父市民のみなさんは 2050 年の養父市でどんなふうに住らしていると想像しますか？

養父市は、持続可能な養父市を次世代へとつないでいくため、10年、20年よりももっと先の未来を思い描き、「やぶ 2050 ～居空間 (いくうかん) 構想～」を定めました。

### 1 「やぶ 2050 ～居空間構想～」の実現に向けた挑戦！

#### ■居空間構想に込めた思い

養父市ならではの「価値創造」に向けて様々なことに「挑戦できる」まちへ

まちづくりを通して養父市らしさを具体化していくためには、一丸となって中山間地域ならではの価値を創造していくことが重要です。養父市は支援・応援体制を創り、まちの中で様々な人が創造的に様々な活動に挑戦している姿、一人ひとりが参加しやすい活動が市内にたくさん生まれている姿を将来像として思い描いています。

#### 「次世代へつなぐ」持続的な養父市づくりを行っていくために

持続的な養父市を次世代に継いでいくためには、子どもたちにどんな養父市をつないでいくかを、私たちが考え実践することが重要です。そのためには、これまでのようにある程度先が見通せる 10 年先よりももっと先の未来を描き、共有し、いまの子どもたちが将来まちづくりのバトンを握るときまでに、「住み続けたい」と思うことができる養父市づくりに努力し、次世代に向けたメッセージを伝えていくことが大切です。

#### ■居空間構想を構成する考え方

豊かな生活を実現するために必要な「つながり人口」

地方創生の取組の中では、国全体として人口減少を“和らげる”ことが将来像として示されていますが、養父市の中でも新しい時代にふさわしい人口の在り方を考え、人口減少への対応を明確にしなければなりません。多くの地域課題が養父市内の人だけで解決できない現状において、「養父市とつながりを持ちたい」と考えてくれる「つながり人口」を創出し、まちづくりの輪を広げていくことが重要です。

#### 「無限に広がる空間のなかで “つながる” という世界観

急速なデジタル技術の進展はリアルな空間・場を越えて市内の人々はもちろんのこと市内外の人々がつながる社会を可能にします。養父市は兵庫県の但馬の中に位置していますが、「際(きわ)」がなくなったデジタル社会では、無限に広がる空間のなかに位置しています。デジタルを、私たちの豊かな暮らしに必要な部分に上手く取り入れながら「空間」という世界観の中で、“多様なつながり”を創出していく姿を描いています。

# い く う か ん 居 空 間

## 互いに「理解し合う、協力し合う」ことを感じる空間

市内外に住む市民が相互扶助の精神に基づき、支え合う場です。

## 豊かな自然や環境への配慮と文化・伝統の 「分かち合い」を感じる空間

豊かな自然環境への配慮、文化伝統を維持し、創意工夫から新たな価値を生み出す場です。

## 先端技術で「出会い、つながり」を感じられる空間

市外に住む市民も持続的につながりを持ちたくなる、交流の場です。

新しい社会への移行期にある今、まちづくりは市内の市民や企業、そして養父市に訪れる人や企業等と取り組むべきものです。それぞれの様々な挑戦、実践を通して、この計画が“養父市の将来をつくる計画”と考えること、また、将来への多様な道筋を市民、企業、養父市とのつながりを持つ人々と共に考えることが重要です。2050年の養父市が、市内外に住むあらゆる人にとって「居心地がよい」、「住み続けたい」と感じられる「場」、「空間」としての「居空間（いくうかん）」を育むことにより、持続可能な養父市を目指します。



## 2 「将来希望人口」と「つながり人口」

### 2-1 将来希望人口

これからの養父市を描くに当たっては、「人口減少の歯止め」という一方向の目標にとどまらず、「人と地域のつながり」の多様性と豊かさに着目する必要があります。引き続き人口減少の課題に向き合いつつ、定住者だけでなく地域と多様に関わる人々＝「つながり人口」を育みながら、地域の価値を高めることで、持続可能な地域社会を次世代へと引き継いでいきます。

今後は「未来の養父市への投資」を引き続き積極的に展開していくと同時に、「未来の養父市への投資」によって生み出された芽を生かし、地域に根ざした産業・人材・暮らしを育てるフェーズです。

これらの視点を踏まえ、**2050年の養父市の将来希望人口を13,000人に設定**します。その達成手段として、移住定住、少子化対策だけでなく、多様な交流や関わり、地域内経済循環の創出に果敢に取り組んでいきます。

(養父市の将来人口推計)

	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年
国立社会保障・人口問題研究所推計値(2024)	22,129	19,998	18,185	16,440	14,762	13,189	11,692	10,305	9,034	7,863	6,801
養父市推計人口	22,129	19,998	18,296	16,736	15,341	14,039	12,735	11,500	10,373	9,369	8,493

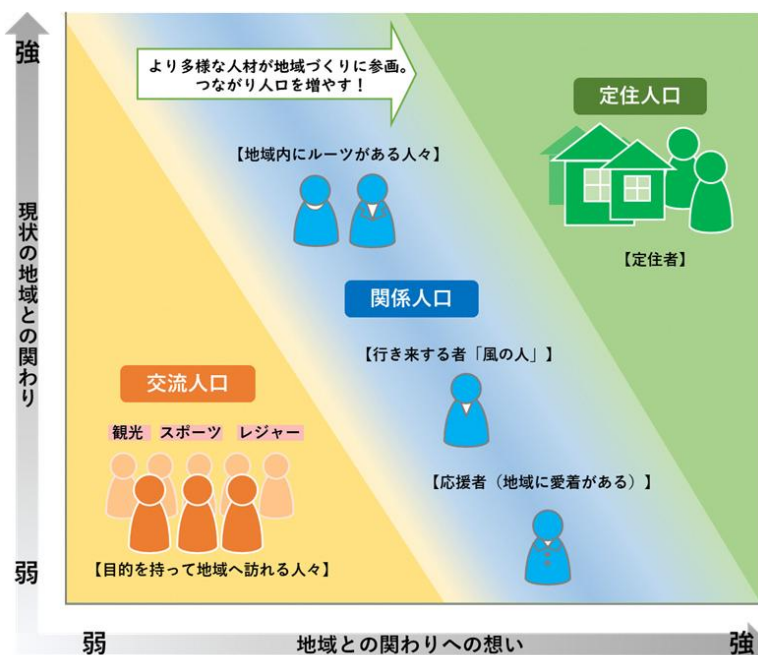
2050年時点の将来希望人口：約13,000人

### 2-2 つながり人口

人口減少、少子化、高齢化等により、まちの活力が失われてしまうと、負のスパイラルから抜け出すことができなくなってしまいます。このような状況にならないように活力の維持をしなければなりません。

活力の維持のために「つながり人口」を拡大させていきます。「つながり人口」は、関係人口を一步前進させて、地域活動にも参画する人々のことを指します。

今後は、養父市の実人口（市内在住者）とつながり人口の協働により、魅力的なまちづくりを展開し、移住定住の可能性を高めていきます。



## 3 2030年の養父市

### ～まちづくり計画が掲げる養父市の将来像～

持続可能な養父市を次世代へつなぐための第一歩として、本計画が掲げる養父市の将来像を以下のとおり設定しました。

#### 3-1 将来像

### 豊かで持続可能なスマートヴィレッジの共創

#### 「心の豊かさ」を大切にしたまちづくりへ

私たち養父市民は、先人のたゆまぬ努力により培われてきたまち・農村の伝統文化、自然環境などの多様な地域資源を愛着や誇りをもって守り、さらに次代へ向けて大きく育て、次世代を担う子どもたちへつないでいくことが大切であると考えます。「豊かさ」のものさしは人それぞれ違うかもしれませんが、「居空間」の創造に向けて、豊かな心をもつ人々が、理解し合い、協力し合うことにより多様なつながりを創っていくことが重要です。

#### 養父市を「持続可能なまち」へ

そして、いつまでも住み続けられる、住み続けたいと思える地域を築いていかなければなりません。気候変動、人権、経済成長など、養父市が生活の中で直面する問題から養父市にとどまらない問題に幅広く対応していくためにも、経済・社会・環境に配慮した新しい中山間地域の創造を目指し、先人が創り上げてきた農ある地域社会の文化・伝統を生かした、養父市にとどまらない多彩な人による共創のまちづくりを行っていくことが大切です。

#### 目指すはスマート（賢く・活発）ヴィレッジ（農村・田舎）

急速に進む最先端のデジタル技術は、中山間地域にこそ必要なものだと考え、私たちの基本的な生活を守るために有効に活用していくことが重要です。それは決して私たちの生活を劇的に変えるものではないかもしれませんが、養父市に住む人々の「人の温かみ」を大切にしながら、必要などころに上手く「最先端のデジタル技術」を取り入れ、賢く、活発な田舎として様々な挑戦ができるまちづくりを目指します。

#### 「みんなが挑戦心をもって」輝かしい中山間地域の創造へ

持続可能な地域社会を創造するため、多様な人の挑戦を支援・応援できる基盤整備のもと、誰もがそれぞれの個性を生かした取組に挑戦できるまちを目指します。一人ひとりが魅力的な“やぶぐらし”を創造することが未来のまちづくりを担う子どもたちへの大きなメッセージとなります。



### 3-2 将来像を実現する3つの柱

下記の図は、将来像（2030年の養父市）に掲げた豊かで持続可能なスマートヴィレッジを共創している姿を現しています。これらの根底に「先人から培った養父市に根付く挑戦心あふれる土壌」が生み出されており、常に新たな価値創造に向けて歩み続けています。



#### 市民

様々なつながりのもと、持続可能なスマートヴィレッジの共創に向けて挑戦し、市民一人ひとりが魅力的な“やぶぐらし”を創造しています。

#### 地域

多様な人・コミュニティがパートナーシップのもと様々な活動を展開するとともに、大人も子どもも学びにあふれる環境を創り出しています。

#### 公共

地域の発展を支えるため、様々な挑戦を支える基盤整備に取り組むとともに、基本的な生活を新たなステージへ導いています。

### 3-3 3つの柱を成長させる6つの政策

3つの柱は、養父市を構成する様々な分野に相互に関わっていることから、3つの柱を成長させるために第2期基本計画では新たに6つの政策を設定しました。

6つの政策は、タウンミーティングや市民アンケートの内容から市の目指す姿を意識しながら「心の豊かさ」「持続可能性」「スマート」「挑戦心」などの視点を踏まえて整理したものです。

## 第2期基本計画





# 1 基本計画の体系

将来像を具現化していくために、次ページ以降のような体系を定めました。

市の中心的政策の柱となる「今後 10 年間の取り組むべき 3 つの柱」を踏まえて、これからの第 2 期基本計画の 5 年間の行動ベースとなる「6 つの政策」を配置し、その推進分野として主要施策を設定しています。

また、幅広い分野にわたり共通的に取り組む必要があるという考え方として“「伝える」から「伝える」情報発信”を「横断的な行動指針」に位置付けました。

これは、情報発信が目的化することを防ぎ、市民の理解や同意、共感を得られるといった「伝える」情報発信を目指すというものです。

## 将来像

# 豊かで 持続可能な スマート ヴィレッジ の共創

## 全体目標

・出生数 100 人/年

現状値:88 人  
→目標値:100 人

・養父市に住み続けたい  
と思う人の割合

現状値:63%  
→目標値:66%

市  
民

地  
域

公  
共

## 政策と数値目標

### 政策1 みんなが支える教育・子育て環境のまち

数値目標:地域全体が子育てや教育を支えていると感じる人の割合

現状値:21.0%(R7)→目標値:24.0%

### 政策2 つながりが織りなす安全安心で笑顔があふれるまち

数値目標:暮らしの中で異なる世代の人とつながり、付き合いがある人の割合

現状値:64.9%→目標値:68%

### 政策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち

数値目標:自分らしく暮らしていると思う人の割合

現状値:69.5%→目標値:73%

### 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る挑戦しやすいまち

数値目標:①誇りややりがいをもって働いている人の割合  
②次世代につなぐ意識をもって働いている人の割合

①現状値:67.9%(R7)→目標値:70.9%

②現状値:45.3%(R7)→目標値:48.3%

### 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち

数値目標:公共交通や生活基盤に安心感を持っている人の割合

現状値:62.0%(R7)→目標値:65.0%

### 政策6 参画と協働で進める行政経営のまち

数値目標:まちづくり活動に参画している人の割合

現状値:44.8%(R7)→目標値:47.8%



## 主要施策

横断的  
行動  
指針

「伝える」から「伝わる」  
情報発信

1-1 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成	1-4 つながりが支える子育て環境
1-2 特色のある学校教育の推進	1-5 市民文化の創造の促進
1-3 学校教育環境の整備充実	1-6 図書館機能の充実
2-1 公民館活動の充実	2-3 災害に強いまちづくりの推進
2-2 ライフデザインを描き充実した暮らしの実現	2-4 安全安心な暮らしを守る対策
3-1 安心できる地域医療の確保	3-4 介護予防の充実と介護保険制度の円滑な運営
3-2 健康・体力づくりの推進	3-5 社会的処方への推進
3-3 地域福祉の充実	
4-1 力強い農業経営の実現	4-5 商工振興と雇用創出の推進
4-2 農産物のブランド力の向上	4-6 観光振興の推進
4-3 有害鳥獣対策の推進	4-7 創意工夫によるふるさと納税の推進
4-4 林業活性化の推進	4-8 外部人材の登用
5-1 計画的な土地利用の実現	5-4 計画的な地籍調査の実施
5-2 公共交通の充実	5-5 上下水道事業の充実
5-3 道路管理の徹底	5-6 環境にやさしいまちの推進
6-1 協働のまちづくりの確立	6-4 選挙の適正な執行と投票機会の確保
6-2 ICTの利活用による市民サービスの向上	6-5 市税の適正な賦課徴収
6-3 健全で効率的な行財政運営の実施	6-6 情報の発信

## 政策1 みんなが支える教育・子育て環境のまち

地域の未来を担う子どもたちが、自分らしく学び、のびのびと成長できるよう、家庭や地域、行政が力を合わせて、安心して子育てできる環境づくりと心が豊かに育つまちづくりを進めます。

### ワークショップから見る魅力(市民意見)

- 少人数で一人ひとりに寄り添う教育環境
- 地域と連携した特色ある学び、ICT活用
- 子育て支援が充実し、安心して育てられる
- 地域ごとに伝統行事が継承されている

### 市民アンケートから見る生活実感・満足度

- 「子育て環境が良い」は5位(18項目中)
- 「教育環境が良い」は9位(18項目中)
- 「文化芸術活動の魅力を感じる」は約4割
- 求められる施策では「つながり支える子育て」が4位

### 身近なまちの課題

- 教育環境と市全体が支える子育て支援の強化が必要
- 郷土愛の醸成や世代間交流を通じた学び・育ちの機会を広げることが必要
- 地域の魅力発信と暮らしやすさを両立できる環境整備が必要

### ウェルビーイングの視点

- 子ども一人ひとりが学びや成長の機会を十分に得られ、安心して子育てができている
- 学びの楽しさや郷土愛の育成により、自己肯定感や満足感につながっている
- 移住者や若者も含め、全世代が「ここに住んで良かった」と感じられている

### 目指す姿

#### 1-1 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成

知識・技能を活用し、自ら課題を見つけ、ともに学び合い「在りたい未来」の実現に向けて挑戦を続けている

#### 1-2 特色のある学校教育の推進

学校・家庭・地域が協働し、地域資源・地域人材の本物に触れる学びやふるさとへの思いを育む学びなど、生きる力の礎となる学びが展開されている

#### 1-3 学校教育環境の整備充実

一人ひとりに目が行き届き、安全安心で快適な学習環境が整えられている

#### 1-4 つながりが支える子育て環境

市民が安心して子どもを育てられる環境を身近に感じ、地域とつながりながら学び、遊び、支え合うことができている

#### 1-5 市民文化の創造の促進

文化芸術を推進し、心の豊かさやコミュニティの充実を図ることで、ひとが元気になり、まちが元気になる

#### 1-6 図書館機能の充実

市民が読書や学びに親しむことができるように図書館の機能が適切に生かしている



## 政策2 つながりが織りなす安全安心で笑顔があふれるまち

地域のことを市民自らが考え、解決に向けた主体的な行動ができるよう、人と人とのつながりを大切に、地域全体で支え合いながら安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。

### ワークショップから見る魅力(市民意見)

- 山や森に囲まれ、空気・水がきれいで静か
- 住環境がよい、自家用車があれば移動も便利
- 地域のつながり・交流の豊かさを感じる
- 地域での防災活動が定着している

### 市民アンケートから見る生活実感・満足度

- 「犯罪等が少なく安全」は2位(18項目中)
- 「自然災害のリスクが低い」は8位(18項目中)
- 求められる施策では「安全安心なまち」が2位
- 「主体的な見守り行動をしている」は約3割
- 自分らしく暮らしている人の割合は約7割

### 身近なまちの課題

- 若者・子育て世代の定住・居場所づくりが必要
- 防災・防犯対策など、生活の安全・利便性を支える基盤整備が必要
- 世代や性別にこだわらない趣味や学習、交流の場の充実が必要



### ウェルビーイングの視点

- 自分らしい暮らしや活動ができ、満足感や生活の質の向上につながっている
- 安全・健康に暮らせる環境が整っている
- 地域コミュニティとのつながり、世代間交流が盛んであり安心できる居場所がある



### 目指す姿

#### 2-1 公民館活動の充実

公民館に市民が気軽に集い、学び合い、交流しながら世代を越えて人のつながりと生きがいが育まれている

#### 2-2 ライフデザインを描き充実した暮らしの実現

一人ひとりが自分らしい生き方を選び、地域の人や自然とつながりながら、学び・働き・暮らしを通じ充実した人生を実現している

#### 2-3 災害に強いまちづくりの推進

地域全体で災害に備え、助け合いができています

#### 2-4 安全安心な暮らしを守る対策

犯罪や交通事故から身を守り、見守りや支え合いによって安全に生活ができています

## 政策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち

誰もが安心して医療や福祉を受けられ、介護予防や健康づくりに参加できる環境を整えます。世代を越えた交流と支え合いにより、心身ともに元気に暮らせるまちづくりを進めます。

### ワークショップから見る魅力(市民意見)

- 医療体制が整い、総合病院も近くて安心
- 「毎日元気にクラス」の取組が広がっている
- 自治会や民生委員、社協が中心となる地域の支え合い活動がある
- 介護サービスは充実している（介護保険料は高い）

### 市民アンケートから見る生活実感・満足度

- 「親族友人が近くにいる」「近所付き合いがあり安心」が3・4位(18項目中)
- 「医療・福祉サービスの充実」は7位(18項目中)
- 「多世代のつながりを感じる」は約6割
- 求められる施策では「生涯健康的に過ごせる環境」が1位

### 身近なまちの課題

- 安心して受けられる医療体制や医療機関までの移動手段・交通アクセスの改善が必要
- ライフステージで切れ目のない支援を提供し、安心して暮らせる取組の強化が必要
- 介護等が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていける支援の充実が必要

### ウェルビーイングの視点

- 「健康に暮らせる安心感」を実感できている
- 子育て世帯や高齢者・障がい者も安心して生活でき「幸福感」が感じられている
- 異世代間交流や地域活動への参加で「居場所感・連帯感」が生まれる

### 目指す姿

#### 3-1 安心できる地域医療の確保

誰もが必要なときに安心して医療を受けられている

#### 3-2 健康・体力づくりの推進

世代を越えた交流や予防活動が広がり、元気に暮らすことができている  
楽しみながら運動やスポーツに取り組み、健康づくりや仲間づくりができている

#### 3-3 地域福祉の充実

地域全体で支え合う環境が整っており、住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らし続けられている

#### 3-4 介護予防の充実と介護保険制度の円滑な運営

地域の多様な主体が連携し、介護が必要になる前から予防や支援に取り組んでおり、自立した生活ができている

#### 3-5 社会的処方への推進

多様なコミュニティや社会資源に人がつながり、孤立せず健やかに自分らしく暮らしている



## 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る 挑戦しやすいまち

働く人が働きがいを感じられるよう、農林業や商工、観光などの地域資源を生かし、多様な働き方やつながり、新たな挑戦によって産業の活性化を進め、賑わいあふれるまちづくりを進めます。

### ワークショップから見る魅力(市民意見)

- 農林業や特産品の魅力が高い
- 長寿企業が多く、事業継承に努力している
- 地域の魅力を生かして仕事や交流ができる
- 氷ノ山をはじめ、多くの自然と多くの観光資源がある

### 市民アンケートから見る生活実感・満足度

- 「望む仕事をしている」は 12 位(18 項目中)
- 「通勤通学の利便性」は 14 位(18 項目中)
- 「観光客等の増加を感じない」人は約 8 割
- 求められる施策では「地域の価値を生かした仕事づくり」は 3 位

### 身近なまちの課題

- 若者が魅力を感じる雇用環境の整備が必要
- 様々な地域資源を生かした経済基盤を強化し、地域産業を次世代につなげることが必要
- 自然環境や地域資源のさらなる情報発信が必要

### ウェルビーイングの視点

- 自らの能力や知識を生かして地元で安定して働いており、充実した生活を過ごしている
- 農業・林業など地域の伝統や自然を生かして働くことで、地域への愛着や誇りが育まれている
- 地域の魅力を発信し、共有体験を通して、自分の暮らす場所への満足感や誇りが育まれている

### 目指す姿

#### 4-1 力強い農業経営の実現

多様な農地の担い手により、農地や周辺環境が適切に保全され、農業・農村が有する多面的機能が発揮されている

#### 4-2 農産物のブランド力の向上

養父市の強みである農産物の認知度が更に向上し差別化が図られることで、生産者の所得が向上し、人が集まり生産が持続的に発展している

#### 4-3 有害鳥獣対策の推進

地域全体で有害鳥獣の被害情報が共有・管理され、被害を最小限に抑えられている

#### 4-4 林業活性化の推進

地域の森林資源を活用できる持続可能な体制と若者や移住者の新規就業を創出し、地域の活性化につながっている

#### 4-5 商工振興と雇用創出の推進

地域の活性化を実感し、誇りややりがいをもって働くことができている

#### 4-6 観光振興の推進

自然と歴史・文化の魅力が生かされ、地域へにぎわいを生み出している

#### 4-7 創意工夫によるふるさと納税の推進

寄附を通してつながる喜びや共感、関心を集めている

若者支援、子育て、自然環境保全など多彩な地方創生プロジェクトに対し、多くの方々から応援が得られている

#### 4-8 外部人材の登用

外部人材が持つ発想力、経験、専門的な知見等と市の魅力や特産、市内人材など地域資源を融合させ、チャレンジングな事業が次々に生まれている

## 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち

豊かな自然環境を次世代へ引き継ぎながら、道路や上下水道、公共交通などの生活基盤の充実を図り、安全安心で快適に暮らせる、住んでみたい・住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

### ワークショップから見る魅力(市民意見)

- デマンド交通、やぶくるなど市に合った公共交通が整備されている(タクシー助成等もある)
- 道路整備が進み車があればどこでも行きやすい
- 空き家バンクにより空き家が活用されている
- 生活基盤と自然・文化の魅力が調和している

### 市民アンケートから見る生活実感・満足度

- 「交通の便が良い」は 16 位
  - 「緑や田園が多く自然環境が良い」は 1 位
  - 「公共サービス・施設が整っている」は 10 位
  - 「公園や遊び場が整備されている」は 17 位
- ※全て 18 項目中の順位です。

### 身近なまちの課題

- 分譲宅地など住宅施策の充実や空き家を活用した地域の活性化が必要
- 公園や雨天時の遊び場など子どもたちが地域で安心して過ごせる居場所が必要
- 移動手段やインフラ整備の改善など安全・安心に暮らせる環境改善が必要

### ウェルビーイングの視点

- 住む場所の選択肢が広がり、安心した暮らしが整うことで幸福感が向上している
- お気に入りの居場所があり、社会的なつながりのある生活の満足度が高まっている
- 公共交通や生活基盤が整っており、暮らしが安定している

### 目指す姿

#### 5-1 計画的な土地利用の実現

中心市街地、住居地域、歴史・自然緑地などがバランスよく配置され、これらをつなぐネットワークが整備されている

#### 5-2 公共交通の充実

新技術の導入や地域ニーズに応じた公共交通が整備されている

#### 5-3 道路管理の徹底

住民が安心して移動でき、来訪者や観光客が訪れやすいまちとなっている

#### 5-4 計画的な地籍調査の実施

地籍情報が整備され、地域資源が有効利用できている

#### 5-5 上下水道事業の充実

安全安心で快適な水道水を利用でき、衛生的な暮らしを支える下水道が適切に維持されている

#### 5-6 環境にやさしいまちの推進

人と自然が共に生きる循環型社会が実現している



## 政策6 参画と協働で進める行政経営のまち

市民が自ら関わり、意見を出し合いながら便利で安心なサービスを受けられる環境を整えます。公平で持続可能な財政運営と地域の魅力発信を通じ、みんなで行うまちづくりを進めます。

### ワークショップから見る魅力(市民意見)

- 自治協の活動が充実している
- 歩数ポイントで高齢者もデジタルを使っている
- 地域活動や交流、支え合いの意識が強い
- 様々な取組が行われている(反面、情報発信が不足している)

### 市民アンケートから見る生活実感・満足度

- 「市の魅力を情報発信している人」は約 1 割
- 「市政に関心ある人」は約 5 割
- 「意見が市政に反映されていると感じる人」は 1 割未満

### 身近なまちの課題

- デジタル施策や情報発信を世代に合わせて最適化する行政サービスの提供が必要
- 多様な市民が「まちづくりに関われる」と感じられる仕組みを作ることが必要
- つながり人口や関係人口など外部から参画してくれる人を増やす仕組みが必要

### ウェルビーイングの視点

- 年齢や IT スキルにかかわらず、必要な情報や行政サービスにアクセスできる安心感がある
- 意見や活動がまちづくりに反映され、地域活動や多世代交流が増えている
- 誰も取り残されず、つながりと支えがあり、安心して健康に暮らしている

### 目指す姿

#### 6-1 協働のまちづくりの確立

地域の取組や活動が共有され、世代や立場を越えて市民が主体的に関わっている

#### 6-2 ICT の利活用による市民サービスの向上

ICT や先進技術を活用し、誰でも便利に利用できる環境を整備し、デジタル化の恩恵を享受できる

#### 6-3 健全で効率的な行財政運営の実施

効率的で信頼される行政運営が行われている

#### 6-4 選挙の適正な執行と投票機会の確保

透明で公正な選挙が行われており、多くの市民が投票している

#### 6-5 市税の適正な賦課徴収

正確な課税と着実な徴収で安定した財政運営を支えている

#### 6-6 情報の発信

養父市の魅力が市内外に分かりやすく伝わるとともに、多様な発信ツールを通じて行政と市民相互の情報共有を図ることで、行政への理解や関心が深まっている

## 2 第2期基本計画に記載する項目

第2期基本計画は、基本構想における「養父市の将来像」を実現するため、「6つの政策」とその手段である「主要施策」について、その具体的な内容を記載したものです。

基本計画では、次の項目を記載しています。

### 2-1 目指す姿

この施策によって（5年後の）目指す姿を示しています。まず全体のイメージを簡潔な文章で示し、併せて、評価の観点から、働きかける人やものなどの「対象」と対象をどのような状態にするのかを示す「意図」に分けて整理しています。

### 2-2 目標とする指標

各施策の目指す姿の達成状況を測る指標です。各指標について把握できる最新の値（現状値）と第2期基本計画期間に目指す目標値を示しています。

### 2-3 市の主な取組

主要施策を達成するため、第2期基本計画期間に市が取り組む主な取組内容を記載しています。

### 2-4 タウンミーティング等における市民意見（みんなができること）

主要施策の目的を達成するための市の取組に加えて、タウンミーティングの参加者からのご意見や市民アンケート等のご意見を記載しています。



## 2-5 SDGs

各施策に該当するSDGs（エス・ディ・ジーズ、Sustainable Development Goals）のどのゴールに主に関連するかを示します。

SDGsとは、「Sustainable Development Goals」の略で、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に基づく国際目標です。2030年までに誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指すため、先進国・途上国を問わず、日本も積極的に取組を進めています。

### SDGsの17の目標

<p>1 貧困をなくそう</p>	<p><b>1. 貧困をなくそう</b> あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。</p>	<p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	<p><b>10. 人や国の不平等をなくそう</b> 各国内および各国間の不平等を是正する。</p>
<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p><b>2. 飢餓をゼロに</b> 飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p><b>11. 住み続けられるまちづくりを</b> 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する。</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p><b>3. すべての人に健康と福祉を</b> あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p><b>12. つくる責任 つかう責任</b> 持続可能な生産消費形態を確保する。</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p><b>4. 質の高い教育をみんなに</b> すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する。</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p><b>13. 気候変動に具体的な対策を</b> 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる。</p>
<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	<p><b>5. ジェンダー平等を実現しよう</b> ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う。</p>	<p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p><b>14. 海の豊かさを守ろう</b> 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p><b>6. 安全な水とトイレを世界中に</b> すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。</p>	<p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p><b>15. 陸の豊かさを守ろう</b> 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復および生物多様性の損失を阻止する。</p>
<p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p><b>7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b> すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。</p>	<p>16 平和と公正をすべての人に</p>	<p><b>16. 平和と公正をすべての人に</b> 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。</p>
<p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p><b>8. 働きがいも経済成長も</b> 包摂的かつ持続可能な経済成長およびすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。</p>	<p>17 パートナリーシップで目標を達成しよう</p>	<p><b>17. パートナリーシップで目標を達成しよう</b> 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。</p>
<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p><b>9. 産業と技術革新の基盤をつくろう</b> 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る。</p>		





## 政策1

### みんなが支える教育・子育て環境のまち

- 1-1 確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成
- 1-2 特色のある学校教育の推進
- 1-3 学校教育環境の整備充実
- 1-4 つながりが支える子育て環境
- 1-5 市民文化の創造の促進
- 1-6 図書館機能の充実



施策

1-1

確かな学力・主体的に学ぶ態度の育成

目指す姿

知識・技能を活用し、自ら課題を見つけ、ともに学び合い「在りたい未来」の実現に向けて挑戦を続けている

目標とする指標

指標	現状値	目標値
①自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒の割合	小:78.9% 中:73.8%	小:90% 中:90%
①自分の考えを深め新たな考え方に気づく児童生徒の割合	小:82.3% 中:81.1%	小:90% 中:90%
②将来の夢や目標を持つ児童生徒の割合	小:87.1% 中:65.3%	小:90% 中:80%
②トライやる・ウィークでの充実を感じる生徒の割合	89%	90%

※「目標とする指標」の各指標の丸数字(①、②など)は、「市の主な取組」の各取組の丸数字と連動しています。次ページ以降も同じです。

市の主な取組

① 主体的に考える教育の充実

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めるとともに、ICTを活用しながら探究的・総合的な学習活動を充実させ、児童生徒の主体的思考と行動力を育みます。

② 将来を考える力を育てる教育

キャリア教育や体験活動を通じて、児童生徒が主体的に考え行動できる力を育み、「在りたい未来」を自分で創造できる学びの環境を整えます。

【関連する計画】

養父市こども計画、第4期養父市教育振興基本計画

【関連課】こども学び課

タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・ 人生の先輩方の人生の歩き方をしっかり伝えよう！



## 政策1 みんなが支える教育・子育て環境のまち

4 質の高い教育を  
みんなに



### 施策

1-2

## 特色のある学校教育の推進

### 目指す姿

学校・家庭・地域が協働し、地域資源・地域人材の本物に触れる学びやふるさとへの思いを育む学びなど、生きる力の礎となる学びが展開されている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①特色ある学校教育活動に満足していると感じる関係者の割合	未測定	「特色ある教育」アンケート項目で市内全校80%以上

### 市の主な取組

#### ① 地域とともにある学校づくり

「やぶ・ふるさとキャリア教育」や「YABU スクールチャレンジ事業」、自然学校、トライやる・ウィークなどの体験活動、学校・家庭・地域連携を通して、それぞれの地域が持つ特色を生かした学校教育を推進することで子どもたちのふるさとを愛する心や地域参画力を高めます。

#### 【関連する計画】

養父市こども計画、第4期養父市教育振興基本計画

#### 【関連課】こども学び課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・オンラインで教育サポートをする。
- ・さすが養父市出身!!と思われるよう、何もないところから何かを産み出すような考える教育をサポートする。
- ・授業に自然環境を取り入れ、広く目を向けられる環境を支援する。



施策

1-3

学校教育環境の整備充実

目指す姿

一人ひとりに目が行き届き、安全安心で快適な学習環境が整えられている

目標とする指標

指標	現状値	目標値
①長寿命化計画による整備、改修等の進捗率	小学校・義務教育学校 前期課程：16.4% 中学校・義務教育学校 後期課程：3.7%	小学校・義務教育学校 前期課程：100.0% 中学校・義務教育学校 後期課程：100%
②学校給食の市内産食材(野菜・米)の使用率	野菜：27.2% 米：99.5%	野菜：30% 米：100%

市の主な取組

① 学校教育施設等の整備・維持管理

学校施設や ICT 環境、教材や支援員を整え、安心して学べる環境と地域で共有できる魅力ある学校づくりを進めます。

② 安全安心な学校給食の提供

安全で安心な栄養バランスの取れた給食を提供するとともに、季節感や地産地消の取組を通じて郷土愛を育みます。

③ 学校、園所の適正配置

学校、園所の適正配置等については、子育て世代、保護者、地域住民の意見を聞きながら、適切に進めます。

【関連する計画】

養父市こども計画、第 4 期養父市教育振興基本計画、養父市食育推進計画(第 4 次)

【関連課】教育課、学校給食センター

タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・市全体で発信、アピールする。地域が学校の取組を応援する。
- ・(学校給食について)自分たちも多くの人に分かりやすく良さを発信する。



## 政策1 みんなが支える教育・子育て環境のまち

施策

1-4

### つながりが支える子育て環境



#### 目指す姿

市民が安心して子どもを育てられる環境を身近に感じ、地域とつながりながら学び、遊び、支え合っている

#### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①この地域で子育てをしたいと思う親の割合	97.0%	97%以上
①困った時に他者に頼れる親の割合	95.8%	96%以上
①居場所(地域子育て支援拠点など)に関する満足度	未測定	80%以上
①特別な支援を必要とする子どもへの相談件数	384件	400件以上

#### 市の主な取組

### ① 子育て環境の充実

妊娠・出産から子育て、教育、就労、福祉まで、全ての子どもと家庭を社会全体で支える「こどもまんなか社会」の実現に向けて、切れ目のない支援体制を整備します。

また、一人ひとりの子どもとその家族の状況やニーズに応じた伴走型支援を推進するとともに、子育て家庭が地域とつながりながら安心して過ごせる多世代の居場所づくりと地域社会で支え合うまちづくりを目指します。

#### 【関連する計画】

養父市こども計画

#### 【関連課】子育て応援課

#### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・養父市ワンチームで子育て支援をする。
- ・地域住民が地域の魅力を再認識する。
- ・“子育てしやすいよー”をもっともっとPRする。



施策

1-5

市民文化の創造の促進

目指す姿

文化芸術を推進し、心の豊かさやコミュニティの充実を図ることで、ひとが元気になり、まちが元気になる

目標とする指標

指標	現状値	目標値
①文化芸術イベントの来場者数	15,067人/年	18,000人/年

市の主な取組

① 文化芸術に触れる機会の充実

子どもから大人まで、全ての世代が文化芸術に関心を持ち、幅広い文化芸術に触れることができるように、気軽に参加できる機会を充実します。鑑賞するだけでなく、市民が主体となり、文化芸術を創造し、表現することにより、地域の文化活動の活性化と底上げを図ります。

【関連する計画】

やぶ市民交流広場を新しい出会いの場とするための基本計画

【関連課】まちづくり文化交流課

タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・音楽などの文化活動にふれる機会をもっと多く作り、参加する。
- ・芸術家の卵を集めて育成(応援)する。



## 政策1 みんなが支える教育・子育て環境のまち



### 施策

1-6

## 図書館機能の充実

### 目指す姿

市民が読書や学びに親しむことができるように図書館の機能が適切に生かしている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①総貸出冊数	72,436冊/年	74,000冊/年
①一人当たりの貸出冊数	3.69冊/年	3.80冊/年

### 市の主な取組

#### ① 図書館利用の促進

市民のニーズや地域課題に応じた選書や読書バリアフリー等の取組を推進するとともに、紙と電子の両書籍を有機的・選択的に活用できる環境を整備し、市民がいつでもどこでも多様な形で読書や学びに親しめる環境を整えます。

【関連課】公民館





## 政策2

### つながりが織りなす安全安心で 笑顔があふれるまち

- 2-1 公民館活動の充実
- 2-2 ライフデザインを描き充実した暮らしの実現
- 2-3 災害に強いまちづくりの推進
- 2-4 安全安心な暮らしを守る対策

## 政策2 つながりが織りなす安全安心で笑顔があふれるまち

施策

2-1

### 公民館活動の充実



#### 目指す姿

公民館に市民が気軽に集い、学び合い、交流しながら世代を越えて人のつながりと生きがいが育まれている

#### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①生涯学習関連講座参加者数	865人/年	950人/年
①文化祭・芸能祭の参加(出展・出場)者数	4,517人	4,600人

#### 市の主な取組

##### ① 活動団体の取組支援

市民が公民館や交流施設を活用し、健康・学習・趣味活動の場を広げるとともに、成果を発表する機会の充実を図ることで生きがいや地域のつながりを感じられる環境を提供します。

【関連課】公民館



## 政策2 つながりが織りなす安全安心で笑顔があふれるまち

施策

2-2

# ライフデザインを描き充実した暮らしの実現

8



11



### 目指す姿

一人ひとりが自分らしい生き方を選び、地域の人や自然とつながりながら、学び・働き・暮らしを通じ充実した人生を実現している

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①出会いイベント等の参加満足度	77.3%(R7)	87.3%
②将来ふるさとに住みたいと感じる生徒(高校生)の割合	6.3%	12%
③将来Uターンしようと思っている人(大学生等)の割合	30%	35%
④移住(住宅)支援制度を活用し、定住した人の数	103人	120人以上

### 市の主な取組

#### ① 多様な価値観とライフデザイン形成の尊重

仕事や働き方、結婚や子育て、暮らし方など、様々な価値観を尊重し、自分らしい生き方や家族のあり方を主体的に実現できる環境を整えます。

#### ② 企業・社会人と教育機関、行政が連携したキャリア形成支援

養父市等で活躍する若者・人づくりに取り組みます。中高生や大学生等を対象に、進路進学や職業、自身のライフデザインを考える機会を捉え、キャリア形成の支援を実施します。

#### ③ 心のつながり醸成

地域コミュニティにおける交流の場、催し物などを通じて、人と人とのつながりを育み、互いに支え合えるまちづくりを進めます。また、将来を担う子どもたちはもちろんのこと、進学後、または学校卒業後も様々なアプローチにより接点を持ち、温かい心のつながりを維持します。

## ④ まちの魅力を発信

美しい自然や景観、居心地がよく、安全で、快適な暮らしやすい生活環境など、養父市の魅力を分かりやすく伝え、養父市が移住先や定住先として選ばれるまちのプロモーションを推進します。

【関連課】やぶぐらし未来協創課、土地利用未来課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・リモートワークを推進して田舎に住んでもらう。良さを発信する。
- ・新卒者のための『下宿』体験施設を、空き家を活用するなどして地域で開設する。
- ・婚活イベントを企画し、参加を促す。
- ・赤ちゃん先生の活動を復活する!!婚活や出産に前向きになれる取組でとても良かった。
- ・パートナー制度の理解を深める。



## 政策2 つながりが織りなす安全安心で笑顔があふれるまち



### 施策

### 2-3

## 災害に強いまちづくりの推進

### 目指す姿

地域全体で災害に備え、助け合いができています

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①一斉避難訓練の参加割合	45%	50%
①防災関連出前講座の開催数	19回/年	22回/年
②消防団の実団員数(消防団員と機能別消防団員の合計)	1,090人	1,200人以上

### 市の主な取組

#### ① 防災減災体制の充実

防災拠点や情報伝達手段を整備し、デジタル技術を活用した災害対応の迅速化・効率化を進めます。また、防災リーダー育成や出前講座の充実、市民参加型の訓練実施などにより、市民が主体となる防災意識の醸成を図って、誰ひとり取り残されない災害に強い安心して暮らせるまちづくりを目指します。

#### ② 消防体制の強化充実

人口減少・少子高齢化の進展など社会情勢の変化を的確に把握して、より効率的・効果的な消防団組織のあり方を探求し続け、さらなる処遇の改善と負担軽減を進めて団員確保に努めます。また、平時からの巡回啓発や訓練の実施など、消防本部との連携と協力をさらに深化し、より強固な消防体制を確立します。

#### 【関連する計画】

養父市強靱化地域計画、養父市地域防災計画

#### 【関連課】防災安全課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・自分たちで安全な避難場所に早めに避難する。
- ・年齢や性別に関係なく、初期消火訓練に取り組む。
- ・声かけ避難、乗り合わせ避難をする。



施策

2-4

安全安心な暮らしを守る対策

目指す姿

犯罪や交通事故から身を守り、見守りや支え合いによって安全に生活ができている

目標とする指標

指標	現状値	目標値
①見守り活動に参加する人の割合	29.2%	35%
①交通事故や犯罪が少なく安全であると感じる人の割合	65.7%	75%
②消費生活センターへの相談件数に対する救済件数の割合	14.1%	20%

市の主な取組

① 交通安全と防犯対策の推進

警察、防犯協会、交通安全協会等の関係機関との連携を強化し、交通事故防止や歩行者優先意識の徹底など交通安全思想の普及・浸透を図ります。

市民の体感治安を低下させる特殊詐欺や空き巣等の被害を防止するため、出前講座や防犯カメラの設置、地域住民による見守り活動の推進により市民の防犯意識を高め、安全安心に暮らすことができるまちをつくります。

② 良好な生活環境の確保

出前講座や広報やぶ、市ホームページ等による広報活動を通じて、悪質商法や訪問販売等による消費トラブルに関する情報や解決方法を啓発し、市民の消費力を向上させ、消費者被害発生時には可能な限り救済できるよう関係機関と連携し、安心・快適に暮らせるまちをつくります。

【関連課】市民課



## 政策3

誰もが健康的に暮らし

ウェルビーイングを実感できるまち

- 3-1 安心できる地域医療の確保
- 3-2 健康・体力づくりの推進
- 3-3 地域福祉の充実
- 3-4 介護予防の充実と介護保険制度の  
円滑な運営
- 3-5 社会的処方への推進

## 政策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち



### 施策

#### 3-1

## 安心できる地域医療の確保

### 目指す姿

誰もが必要なときに安心して医療を受けられている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①医療・福祉サービスが充実していると感じる人の割合	39.4%	40.0%

### 市の主な取組

#### ① 医療提供体制の維持・確保

市民が安心して医療サービスを利用できるよう、医師・医療従事者の確保とそれに伴う支援や医療機関相互の連携強化を図り、適切に医療を提供するための体制整備に取り組めます。また、公立病院の支援と市内国保診療所の経営について、最善の施策を行います。

【関連課】健康医療課



## 政策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち



### 施策

#### 3-2

## 健康・体力づくりの推進

### 目指す姿

世代を越えた交流や予防活動が広がり、元気に暮らすことができる

楽しみながら運動やスポーツに取り組み、健康づくりや仲間づくりができています

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①平均自立期間(健康寿命の指標の一つで日常生活動作が自立している期間の平均のこと)	男:79.8歳 女:84.8歳 (R4-6平均)	男:80.3歳 女:85.3歳
①国保加入者の特定健診受診率	42.3%	48.0%
②週1回以上スポーツに親しむ市民の割合	37.2%	42.0%

### 市の主な取組

#### ① ライフコースアプローチ※を踏まえた健康づくりの推進

地域全体で「誰一人取り残さない」健康づくりを推進し、生涯を通じた健康の維持・増進と誰もが元気に安心して暮らせる地域を目指し、子どもから高齢者までの各世代に応じた栄養・食生活、運動、口腔、休養・睡眠など、健康的な生活習慣の確立に向けた支援と、生活習慣病の予防および重症化予防を推進します。

#### ② スポーツを通じた健康・体力づくりの推進

子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが心身ともに健康で元気に暮らすため、スポーツや運動を自主的に取り組むことができる環境を整備します。また、ライフステージや興味、関心に対応したライフスタイルをつくるため、スポーツ・レクリエーション等の活動場所や機会の提供によりスポーツ活動への参加を促進します。

#### 【関連する計画】

健康やぶ 21、養父市スポーツ推進計画、養父市食育推進計画、第4次養父市地域福祉計画

#### 【関連課】健康医療課、100年のまなび共創課

### 用語説明

※ライフコースアプローチ：一生を胎児期から高齢期に至るまで経時的に捉え、生涯を見通した切れ目のない継続的な健康づくりを推進すること。

## 政策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち



### 施策

#### 3-3

## 地域福祉の充実

### 目指す姿

地域全体で支え合う環境が整っており、住み慣れた地域で、自分らしく安心して暮らし続けられている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①安心見守りネットワーク参加事業者数	61事業者	70事業者
①福祉就労から一般就労への移行者数	3人	6人
①定期的に地域活動に参加している人の割合	48.0% (R7・70歳以上)	51.0%
①高齢者等優待乗車証の交付率	33.6%	40%
①移動販売事業者のエリアカバー率(154行政区)	40%(62区)	50%(77区)
②要援護者の就労または収入確保者の割合	40%	50%
③認知症サポーター養成講座年間参加者数	150人/年 (R5-6の平均)	170人/年
③認知症カフェ年間参加者数	930人/年 (R5-6の平均)	1,000人/年

### 市の主な取組

#### ① 安心して暮らせる環境づくり

市民、事業者、諸団体等と連携し高齢者や障がい者をはじめ、全ての人が社会参画し、生きがいをもって、安心して暮らせる環境づくりを推進します。

#### ② 要援護者福祉の充実

要援護者が地域で自立して生活できるよう、生活を立て直すための一時生活支援や相談支援等による支援体制を充実し、多様なニーズに対応できる福祉環境の整備に取り組みます。



### ③ 認知症施策の充実

新しい認知症観<sup>※</sup>を啓発・普及するとともに、認知症になっても自分らしく希望を持って暮らせるよう、認知症の人の声を起点とした地域づくりを市民全体で推進します。

#### 【関連する計画】

第4次養父市地域福祉計画

【関連課】社会福祉課、社会的処方推進課

#### 用語説明

※新しい認知症観：認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも一人ひとりが個人としてできることややりたいことがあり、住み慣れた地域で希望をもって自分らしく暮らし続けることができるという考え方

## 政策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち



### 施策 3-4

## 介護予防の充実と介護保険制度の円滑な運営

### 目指す姿

地域の多様な主体が連携し、介護が必要になる前から予防や支援に取り組んでおり、自立した生活ができている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①介護職員の安定的な確保のための助成制度利用者数	就職祝金:1人/年 資格取得補助金: :1人/年	就職祝金:5人/年 資格取得補助金: :5人/年
②新規介護認定者(要介護1以上)の平均年齢	85.27歳	86歳

### 市の主な取組

#### ① 介護サービス提供体制の維持確保

今後の介護需要を踏まえ、介護サービスを維持していけるよう人材の確保に向けた支援や介護サービスの適正化を推進し、介護サービス事業の安定化を図ります。

#### ② 介護予防の充実

地域での介護予防、認知症予防の活動や情報提供を通じて、高齢者が元気で自立した生活を続けられるようにします。施設や在宅サービスも途切れなく利用でき、若い世代との交流や地域の支え合いの仕組みで、安心して介護が受けられる環境を整えます。

#### 【関連する計画】

第4次養父市地域福祉計画、養父市高齢者福祉計画、第9期介護保険事業計画

#### 【関連課】介護保険課、社会的処方推進課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・介護を地域で。
- ・もっと介護を自分自身の事として考える。

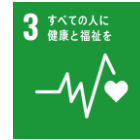


## 政策3 誰もが健康的に暮らしウェルビーイングを実感できるまち

施策

3-5

### 社会的処方への推進



#### 目指す姿

多様なコミュニティや社会資源に人がつながり、孤立せず健やかに自分らしく暮らせている

#### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①～③孤独(望まない孤独)を感じる人がいる人の割合	37.5%	35%
①～③上記のうち、支えてくれる人がいない人の割合	7.5%	5.0%

#### 市の主な取組

### ① 本人中心の包括的支援体制の充実

制度・事業中心の支援（ケア）から本人・世帯にあわせた支援（ケア）を重視した包括的支援体制の充実を図ります。また、医療機関から孤立など生活面に課題を抱える住民の紹介を受け、健康面とあわせて個々の社会生活環境を改善するための相談支援にも取り組みます。

### ② 多機関・多職種の連携強化

医療、介護、福祉および地域に関わる多機関・多職種の顔の見える関係づくりを進め、重層的な支援ができる体制・仕組みづくりを推進します。

### ③ 住民主体の活動を促進

住民が主体となった新たな活動を生み出すための取組を進めるとともに、社会的処方の考え方を理解した市民リンクワーカーを育成します。

#### 【関連する計画】

第4次養父市地域福祉計画、健康やぶ21、養父市高齢者福祉計画、養父市こども計画、第4期養父市教育振興基本計画

【関連課】社会的処方推進課、社会福祉課、健康医療課、介護保険課  
子育て応援課、こども学び課

## タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・自由に発言できる場所、コミュニティを大切にする。
- ・他の人も認める。
- ・区の活動を維持し、地域コミュニティの維持を図る。
- ・行事、催事等できる限り参加していく。
- ・自治協活動への参加を継続する。
- ・ちょっと見守る活動やゆるい声かけ活動を続ける。
- ・ボランティアキャリア登録（つながり、助け合い）する。



## 政策4

地域資源の活用や創意工夫により働く人が  
キラリと光る挑戦しやすいまち

- 4-1 力強い農業経営の実現
- 4-2 農産物のブランド力の向上
- 4-3 有害鳥獣対策の推進
- 4-4 林業活性化の推進
- 4-5 商工振興と雇用創出の推進
- 4-6 観光振興の推進
- 4-7 創意工夫によるふるさと納税の推進
- 4-8 外部人材の登用

## 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る 挑戦しやすいまち

### 施策

#### 4-1

## 力強い農業経営の実現



### 目指す姿

多様な農地の担い手により、農地や周辺環境が適切に保全され、農業・農村が有する多面的機能が発揮されている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①認定(青年)農業者数	54人	60人
①農地が集積している面積	238ha	413ha
②地域計画策定の地区数	92地区	100地区
②多面的機能支払交付金の制度取組数	60件	60件
②中山間地域等直接支払交付金の制度取組数	30件	30件
②遊休農地の面積	53.6ha	30ha

### 市の主な取組

#### ① 農業の担い手確保・育成

農業者の減少・高齢化が進む中、農業が持続的に展開されるよう、規模拡大を望む農業者への農地集積を推進するとともに、次の世代を担う農業者の確保に取り組みます。また、重要な生産基盤である井堰や揚水機場等の更新整備、生産性の向上に資するほ場整備を受益者の意向・負担に配慮しつつ推進します。

#### ② 農地利用の最適化の推進

地域ごとに策定された地域計画をより良いものに随時更新するとともに、未策定地域については引き続き策定を推進します。また、農業委員会と連携した遊休農地の解消や、日本型直接支払制度等を活用した農地・周辺環境の保全に取り組みます。



### 【関連する計画】

養父市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、各地域農業経営基盤強化促進計画、養父農業振興地域整備計画、農地等の利用の最適化の推進に関する指針

### 【関連課】農林振興課、農地政策課

## タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・特区を活用した小水力発電の活用に向けて規制緩和を呼びかける。
- ・地域の人たちが協力しあう。
- ・もうかる農業を考える。もうかるビジョンを見せる。
- ・農業機械のシェアの仕組みを地域で考える。

## 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る 挑戦しやすいまち



### 施策

#### 4-2

## 農産物のブランド力の向上

### 目指す姿

養父市の強みである農産物の認知度が更に向上し差別化が図られることで、生産者の所得が向上し、人が集まり生産が持続的に発展している

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①有機JAS認証者数	20人	25人
①朝倉山椒苗木の支援本数	—	現状から3,500本増加 (年700本)
①肉牛の飼育頭数	3,444頭	3,545頭

### 市の主な取組

#### ① 農産物のブランド力の向上

神戸牛の素牛である但馬牛の増頭、養父市原産の朝倉山椒の生産拡大等を通じて、養父市特産物の更なる認知度向上や販路拡大を推進します。また、有機の里づくりや人と環境にやさしい農業の実現に向けた取組を通じて、持続的で付加価値の高い農業の拡大を目指します。

#### 【関連する計画】

養父市人と環境にやさしい農業ビジョン、養父市但馬牛クラスター計画

#### 【関連課】農林振興課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・但馬農高と連携する。
- ・地域同士のコミュニケーション、コミュニティづくりに参加する。
- ・地元で生産して、地元で加工して、地元で販売する。



政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る  
挑戦しやすいまち



施策

4-3

有害鳥獣対策の推進

目指す姿

地域全体で有害鳥獣の被害情報が共有・管理され、被害を最小限に抑えられている

目標とする指標

指標	現状値	目標値
① 猟友会員数	91人	90人以上
① ジビエ(シカ)の活用数	249頭	350頭
① 農林業の被害額	24,812千円	30%減

市の主な取組

① 有害鳥獣対策の推進

猟友会や地域と協力し、シカやイノシシなどによる農林業被害を防止、軽減するため、防護柵の設置や環境整備、捕獲活動を進めます。

また、有害鳥獣駆除を担う狩猟者の減少がみられることから、猟友会員の確保、育成に努めます。

【関連する計画】

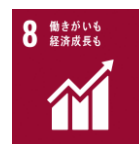
養父市鳥獣被害防止計画

【関連課】環境推進課

タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・ 猟師の育成と優遇改善に協力する。
- ・ 獣害防護柵の補助金を活用し、防護柵の設置に協力する。

## 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る 挑戦しやすいまち



### 施策

#### 4-4

## 林業活性化の推進

### 目指す姿

地域の森林資源を活用できる持続可能な体制と若者や移住者の新規就業を創出し、地域の活性化につながっている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①搬出間伐・主伐による素材生産量	(約3万m <sup>3</sup> /年)	15万m <sup>3</sup> (累計)

### 市の主な取組

#### ① 素材生産による人工林の適正管理

地域最大の資源である森林を素材生産による健全な林業経営で活用していくため、林内作業道の開設と搬出間伐や主伐による利益還元によって、森林所有者の財産意識醸成と所有者不明林の解消を図っていくとともに、「高生産性林業」と「自伐型林業」それぞれの作業システムに適した私有人工林の集約化を進め、各事業者とのマッチングを行うことで人工林の持続可能な適正管理体制を構築します。

また、若者や移住者の新規就業を促進するため、補助制度の充実を図るとともに活動フィールドの提供やスキルアップ研修の実施など伴走的な支援を行い、地域への移住・定住と地域の活性化につなげます。

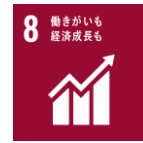
【関連課】林業活性化センター

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・ 樹木の利用を考える。



## 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る 挑戦しやすいまち



### 施策 4-5

## 商工振興と雇用創出の推進

### 目指す姿

地域の活性化を実感し、誇りややりがいをもって働くことができる

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①働きがいを感じる人の割合	67.9%(R7)	77.9%
①企業等振興奨励制度の交付件数	37件	40件
①企業誘致および創業・起業の件数	7件/年	8件/年
①地域ブランド品の創出件数(累計)	43件	47件

### 市の主な取組

#### ① 地域の価値を生かした仕事づくり

誇りややりがいをもって働くことができる環境を目指し、働き方改革の推進を行います。

また、地元産業の支援と創業支援、企業誘致による地域経済の活性化や雇用創出に取り組み、地域産品の魅力向上を図ります。

#### 【関連課】商工観光課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・観光協会と商工会と農業の方、ワンチームで相乗効果を狙う。
- ・若いベンチャー企業が増える取組を考える。
- ・成功例・体験談を定期的に話す場を企画する。

## 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る 挑戦しやすいまち



### 施策

4-6

## 観光振興の推進

### 目指す姿

自然と歴史・文化の魅力が活かされ、地域へにぎわいを生み出している

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①観光入込客数	1,033千人/年	1,136千人/年
①観光情報ウェブサイトの利用件数	264千人/年	290千人/年

### 市の主な取組

#### ① 観光地としての魅力の向上

地域の自然・歴史・文化資源や特産品、伝統行事を生かし、観光施設の整備や安全対策、二次交通対策を講じ、魅力的な観光地を目指します。

また、観光事業者・団体と協力しながら、体験プログラムやツアーなど、養父市を訪れてもらう取組、効果的なプロモーション活動を展開します。

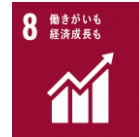
#### 【関連課】商工観光課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・映画の誘致に協力する。
- ・低コストのハイキングコース、展望台の設置を呼びかける。
- ・養父市をめぐるツアーを企画・協力する。



政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る  
挑戦しやすいまち



施策

4-7

創意工夫によるふるさと納税の推進

目指す姿

寄附を通してつながる喜びや共感、関心を集めている  
若者支援、子育て、自然環境保全など多彩な地方創生プロジェクトに対し、多くの方々から応援が得られている

目標とする指標

指標	現状値	目標値
①市内の返礼品提供事業者取扱額	63,000千円/年	140,000千円/年 (+222%)
②ふるさと納税寄附件数(一般寄附)	10,300件/年	19,550件/年 (+190%)

市の主な取組

① 市内産業の振興・起業者育成

養父市に根付く地場産品を大切に、寄附の返礼品としてふるさと納税制度を通して全国に提供します。地域資源を生かした新たな返礼品づくりや産業の創造に取り組むとともに、担い手確保や起業者育成にも取り組みます。

② 多角的な情報発信

情報発信には、様々な手段を活用し広く周知を進めます。分かりやすい言葉や表現、ビジュアルにも工夫を加え、市の取組等を周知し応援につなげていきます。地場産品である返礼品の魅力発信にも努め寄附へつなげていきます。

寄附金の使途事業等を可視化し、寄附を活用した様々な地方創生事業の成果等を公表します。それら事業のアピールを通してふるさと納税を呼びかけ、応援いただく自治体にふさわしいまちづくりを推進します。

【関連課】商工観光課

## 政策4 地域資源の活用や創意工夫により働く人がキラリと光る 挑戦しやすいまち



### 施策

4-8

## 外部人材の登用

### 目指す姿

外部人材が持つ発想力、経験、専門的な知見等と市の魅力や特産、市内人材など地域資源を融合させ、チャレンジングな事業が次々に生まれている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①地域おこし協力隊の退任後定住率	65%	80%

### 市の主な取組

#### ① 地域おこし協力隊の活用

地域おこし協力隊の知恵や発想力、行動力を生かし、地域の課題解決や新たな事業づくりを進めます。地域や事業者と協力しながら、市の魅力を高め、次世代へつなぐ活力あるまちを目指します。

【関連課】やぶぐらし未来協創課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・ 地域おこし協力隊の人との関わりを持つ。



## 政策5

### ふるさとの原風景と快適な都市基盤が 調和した住みやすいまち

- 5-1 計画的な土地利用の実現
- 5-2 公共交通の充実
- 5-3 道路管理の徹底
- 5-4 計画的な地籍調査の実施
- 5-5 上下水道事業の充実
- 5-6 環境にやさしいまちの推進

## 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち



### 施策

#### 5-1

## 計画的な土地利用の実現

### 目指す姿

中心市街地、住居地域、歴史・自然緑地などがバランスよく配置され、これらをつなぐネットワークが整備されている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①住環境の満足度の割合	54.8%	60%
①市営住宅の入居率	75.9%	80%
①市内住居の耐震化率	61%(H25年時点)	97%
②特定空家等のうち除却等の改善がなされた割合	37.0%	50.0%
②空き家バンクへの登録件数	23件/年	25件/年

### 市の主な取組

#### ① 安全安心な住宅・住環境の充実

高齢者や子育て世代も安心して暮らせる住宅やバリアフリー環境を整え、空き家活用や情報発信で移住・定住しやすいまちをつくりまします。また、福祉・防災・交通課題に対応し、公園や道路、上下水道などの基盤整備を計画的に進め、多様な主体と連携して安全で快適な都市空間を創出まします。

#### ② 空き家対策

空き家の適正管理・利活用を進め、老朽空き家の解体支援を充実させることで、安全で安心に暮らせる環境を整備まします。また、空き家情報や移住・定住支援制度を分かりやすく発信し、若者世代や子育て世代の利用を促進まします。

#### 【関連する計画】

やぶ市まち基盤整備計画（養父市都市計画マスタープラン）、養父市住宅マスタープラン、養父市空家等対策計画

#### 【関連課】土地利用未来課、環境推進課、やぶぐらし未来協創課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

・空き家になった際は、空き家を手放すことを呼びかける。



## 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち



### 施策

#### 5-2

## 公共交通の充実

### 目指す姿

新技術の導入や地域ニーズに応じた公共交通が整備されている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①公共交通の利用者数	785,478人	現状維持
①公共交通の満足度の割合	13.8%	20%

### 市の主な取組

#### ① きめ細かな公共交通の実現

バスやタクシー、デマンド交通など多様な公共交通を整備し、高齢者や学生も安心して移動できる環境を整えます。そして、それぞれの移動ツールが持つサービスの特性や役割を生かしつつ、それらを効果的に組み合わせ、相互に補完し合う仕組みを確立していくことで、多種多様な移動ニーズに対応できるきめ細かい公共交通体系の構築を目指します。

#### 【関連する計画】

但馬地域公共交通計画、やぶ市まち基盤整備計画（養父市都市計画マスタープラン）

#### 【関連課】土地利用未来課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・ 異業種間送迎者の利用を促す。
- ・ 公共交通（全但バス）の路線を維持するため、利用促進を企画し、呼びかける。

## 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち



### 施策

5-3

## 道路管理の徹底

### 目指す姿

住民が安心して移動でき、来訪者や観光客が訪れやすいまちとなっている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①インフラ施設の維持・補修の実施箇所	700か所/年	900か所/年

### 市の主な取組

#### ① 道路の適切な維持管理

道路や橋梁、歩道などのインフラを適切に維持管理するとともに、デジタル技術を活用して除雪や点検、防災対策を効率的に行うことで、安全で快適な交通環境を確保し、市民生活や観光・物流の活動を支えます。

#### 【関連する計画】

やぶ市まち基盤整備計画（養父市都市計画マスタープラン）

#### 【関連課】建設課



## 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち

11 住み続けられるまちづくりを



### 施策

5-4

## 計画的な地籍調査の実施

### 目指す姿

地籍情報が整備され、地域資源が有効利用できている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①地籍調査の進捗率	37%	50%

### 市の主な取組

#### ① 地籍調査の確実な進展

防災・林業・インフラ整備など他の公共事業と連携を図り、先進技術を積極的に活用し、計画的かつ効率的に地籍調査を進め、安全で持続可能なまちづくりを支えます。

【関連課】地籍調査課

## 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち



### 施策

#### 5-5

## 上下水道事業の充実

### 目指す姿

安全安心で快適な水道水を利用でき、衛生的な暮らしを支える  
下水道が適切に維持されている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①水道事業の経常収支比率	97.7%	100%
①上水道管路の耐震化率	28.5%	33.1%
②下水道事業の経常収支比率	98.8%	100%
②下水道事業の経費回収率	65.2%	75%

### 市の主な取組

#### ① 上水道の安定供給

水道事業の安定経営を図るとともに、浄水場や管路などの施設を適切に維持管理し、水質確保、老朽化対策、耐震化、施設の効率的再編を進め、将来も安心して使える水道を実現します。

#### ② 下水道の安定処理

下水道事業を安定的に運営するため、老朽施設の更新や耐震化を含む施設の適正な維持管理を進め、快適な下水道サービスを将来にわたり提供できる地域を実現します。

#### 【関連する計画】

養父市水道ビジョン、養父市水道事業経営戦略、養父市下水道事業経営戦略

#### 【関連課】上下水道課



## 政策5 ふるさとの原風景と快適な都市基盤が調和した住みやすいまち

施策

5-6

### 環境にやさしいまちの推進



#### 目指す姿

人と自然が共に生きる循環型社会が実現している

#### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①一般廃棄物リサイクル率	27.8%	31.2%
①資源ごみ集団回収参加団体数	40団体/年	50団体/年
②市有施設の温室効果ガス排出量	5,247t-co2	3,889t-co2
②市内家庭のエネルギー消費量(炭素排出量)	5,267t-C	4,283t-C
②自然環境に配慮した行動を行っている人の割合	69%	75%
③希少動植物の保護・保全活動回数	4回/年	6回/年

#### 市の主な取組

##### ① ごみの削減、リサイクルの推進

プラスチック類を含む資源ごみの分別回収を進め、ごみの減量や資源の有効利用に取り組み、環境への負荷が低減される循環型社会の実現を目指します。

##### ② 温暖化対策の実施

市内において、再生可能エネルギーの活用や省エネの推進を通じて温室効果ガスを削減し、持続可能なゼロカーボンシティの実現を目指します。

##### ③ 希少動植物の保護、保全活動の推進

養父市の豊かな自然を次世代に残すため、関係団体と連携し、希少な動植物の生息地において保護、保全活動を実施します。住民も参加できる活動や学習を通じて、自然を守っていく取組を進めます。

#### 【関連する計画】

第二次養父市環境基本計画、養父市地球温暖化対策実行計画

#### 【関連課】環境推進課

#### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・ 自然保全や活用の取組をイベント化する。





## 政策6

### 参画と協働で進める行政経営のまち

- 6-1 協働のまちづくりの確立
- 6-2 ICTの利活用による市民サービスの向上
- 6-3 健全で効率的な行財政運営の実施
- 6-4 選挙の適正な執行と投票機会の確保
- 6-5 市税の適正な賦課徴収
- 6-6 情報の発信

## 政策6 参画と協働で進める行政経営のまち

### 施策

#### 6-1

### 協働のまちづくりの確立



#### 目指す姿

地域の取組や活動が共有され、世代や立場を越えて市民が主体的に関わっている

#### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①地域自治組織の活動に関わる人の割合	35%	40%
②人権講演会・人権学習会の参加人数	約800人	800人以上

#### 市の主な取組

#### ① 地域自治組織との協働強化

地域自治組織に関する基本理念、地域自治組織、市民、市の役割等を明確にすることで、自主的・主体的な地域づくりを協働により進めます。また、子どもから高齢者までが世代を越えて交流し、支え合うまちづくりに取り組んでいけるよう、多世代交流事業を推進し、地域コミュニケーションの醸成を図ります。

#### ② 人権尊重のまちづくり

あらゆる差別のない人権が尊重される地域社会の実現に向け、養父市人権教育推進協議会と連携し、市民、企業等を対象に、講演会、研修会、学習会等の充実を図り、人権啓発事業を進めます。また、人権学びステーションなど研修会の開催に加え、インターネットによる人権侵害の防止など、情報社会を生きる上での取組を進め、市民への意識啓発を図ります。

#### 【関連する計画】

第2次養父市人権教育及び啓発推進計画

【関連課】やぶぐらし未来協創課、人権推進課

#### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・楽しそう、ワクワクする場や居場所を地域につくる。
- ・身近な自治協や集いの場で教室を開催する。
- ・役員の仕事を細分化し1人の仕事量を減らす。
- ・自治協の支援(人的、金銭的、事務支援、進め方支援)をみんなで考える。



## 政策6 参画と協働で進める行政経営のまち

施策

6-2

# ICTの利活用による市民サービスの向上



### 目指す姿

ICTや先進技術を活用し、誰でも便利に利用できる環境を整備し、デジタル化の恩恵を享受できる

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①コンビニ交付の利用率	26%	30%
①オンライン申請件数	7,950件/年	10,000件/年

### 市の主な取組

#### ① 行政サービスのオンライン化の進展

オンライン申請や健康・学習サービスなどICTを活用し、誰でも利用できる市民サービスを整備するとともに、企業との連携や生成AIなど先進デジタル技術を活用して業務効率化を進め、どこに住んでいても快適に暮らせる社会を目指します。

また、「誰一人取り残されない、人にやさしいデジタル社会」を実現していくため、デジタルデバイド対策を行い、誰もがデジタル化の恩恵を享受することのできる社会に向けた取組を推進します。

#### 【関連課】市民課、経営政策・国家戦略特区課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・田舎ならではのDX化を考える。
- ・市民の暮らしが便利になるようなデジタル活用を考える。



施策

6-3

健全で効率的な行財政運営の実施

目指す姿

効率的で信頼される行政運営が行われている

目標とする指標

指標	現状値	目標値
①経常収支比率	97.6%	95.0%以下
②実質公債費比率	8.5%	8.0%以下
③正規職員数(4月1日時点)	291人	300人
④自分の意見が市政に反映されていると思う割合	8.8%	12.0%

市の主な取組

① 財政の弾力性の向上

最小のコストで最大の効果が発揮できるよう、デジタル化など業務改善に取り組み、行政サービスの効率化・合理化を推進します。また、限られた財源を有効に活用し、無駄のない効率的な行政運営を推進します。

② 公債費負担の適正化

計画的な地方債の発行や繰上償還を実施し、中長期の財政運営の見通しを踏まえ、公債費負担の適正化に努めます。

③ 適正な職員数の確保

職員定員管理計画に基づき、適正な職員数を確保します。また、人事制度や研修制度の充実を図り、行政サービスの人的資源となる職員の資質向上に努めます。

④ 市民意見の市政への反映

市民が意見を出しやすい仕組みを整備し、施策に反映させます。行政情報を分かりやすく公開することで、参加しやすく、住民がまちづくりに貢献したいと思える環境の実現を目指します。

【関連する計画】

養父市職員定員管理計画

【関連課】経営総務課、経営政策・国家戦略特区課



## 政策6 参画と協働で進める行政経営のまち

16 平和と公正を  
すべての人に



### 施策

6-4

## 選挙の適正な執行と投票機会の確保

### 目指す姿

透明で公正な選挙が行われており、多くの市民が投票している

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①各種選挙における投票率	67.2%(4年平均)	65.0%以上

### 市の主な取組

#### ① 適切な投票機会の確保

選挙の周知を徹底するとともに、特に若年層に対する選挙啓発を強化することで全体の投票率を維持します。

また、市民が安心して投票できるよう、投票所の利便性向上や投票環境の向上を推進します。

【関連課】経営総務課



**施策**  
**6-5**

**市税の適正な賦課徴収**

**目指す姿**

正確な課税と着実な徴収で安定した財政運営を支えている

**目標とする指標**

指標	現状値	目標値
①市税の徴収率(収納率)	96.7%	97.0%以上

**市の主な取組**

**① 確実な市税の徴収の実施**

市税を安定的に確保するため、効率的で適正な課税を推進するとともに、徴収率(収納率)の向上を目指し、厳格な滞納整理を進めるなど公平な税制を確保します。

**【関連課】 税務課**



## 政策6 参画と協働で進める行政経営のまち



### 施策

6-6

## 情報の発信

### 目指す姿

養父市の魅力が市内外に分かりやすく伝わるとともに、多様な発信ツールを通じて行政と市民相互の情報共有を図ることで、行政への理解や関心が深まっている

### 目標とする指標

指標	現状値	目標値
①HPやSNSへのアクセス件数(年間)、LINEの受信設定数(累計)	HP:777千人 Facebook:667千回 Instagram:113千回 LINE:851人	HP:1,000千人 Facebook:1,000千回 Instagram:800千回 LINE:3,000人
①市からの情報提供が十分と感じる市民の割合(市民アンケート)	40.6%	50%

### 市の主な取組

#### ① 適切な情報発信の実施

##### ●情報発信の強化

ホームページの充実を図り、SNS、広報やぶを活用して、市内外に養父市の魅力や行政情報を積極的に発信します。また、ターゲットに合わせた最適な伝達ツールを活用するなど効果的な情報発信の強化に取り組みます。

災害時においては、多様な伝達ツールを併用活用し、市民が必要とする情報を迅速かつ確実に発信できるよう取り組みます。

##### ●市民が親しみを持てる広報紙、自主放送番組の制作

市民が関心を持つ課題や地域活動の発信、市民目線での行政情報の積極的な発信に努めます。また、親しみの持てる広報やぶの発行、CATVの自主放送番組を制作することで市民との情報の共有を図ります。

#### 【関連課】情報課

### タウンミーティング等における市民意見(みんなができること)

- ・ 個々人で魅力を発信する。
- ・ 「伝える」から「伝わる」情報発信を重視する。
- ・ こまめに情報を発信する。

# 計画推進体制 について





# 1 戦略的な事業実施体制の構築

## 戦略事業の積極的な推進

限られた予算の中で、本計画を進めていくためには、予算を戦略的に配分していく必要があります。このことから、本計画を推進するために「戦略事業」を設け、戦略的な事業実施体制を構築していきます。

戦略事業は、本計画で示す将来像や基本目標を達成するために、各部局が重要であると位置付ける事業の中から「養父市まちづくり推進本部」において決定します。また、戦略事業の予算については、養父市創生基金や養父市元気な養父づくり応援基金などを重点的に配分し、積極的に推進していきます。

## 事業を停滞させない仕組み

戦略事業は、本計画を推進するに当たって重要であると位置付けられる事業であることから、停滞させることなく絶えず発展していく必要があります。事業ごとに設定された数値目標の結果や各部局の経営方針などを踏まえて、各部局で戦略事業の見直しを図り、まちづくり推進本部で年度ごとに事業の入替えを実施できるようにします。

## 積極的な財源確保

自主財源に乏しい養父市において、自主財源以外の財源を確保していくことは非常に重要になっていきます。今後実施する事業においては、財源確保のため国県費等を積極的に活用していきます。

## 2 取組内容を評価するプロセスの構築

### 外部委員による検証委員会の設置

本計画の推進に当たって「養父市まちづくり計画評価検証委員会」を設置し、外部委員によって計画の評価を受ける体制を構築します。ここでは、基本計画で設定した数値目標やKPIの進捗状況について検証を行っていきます。

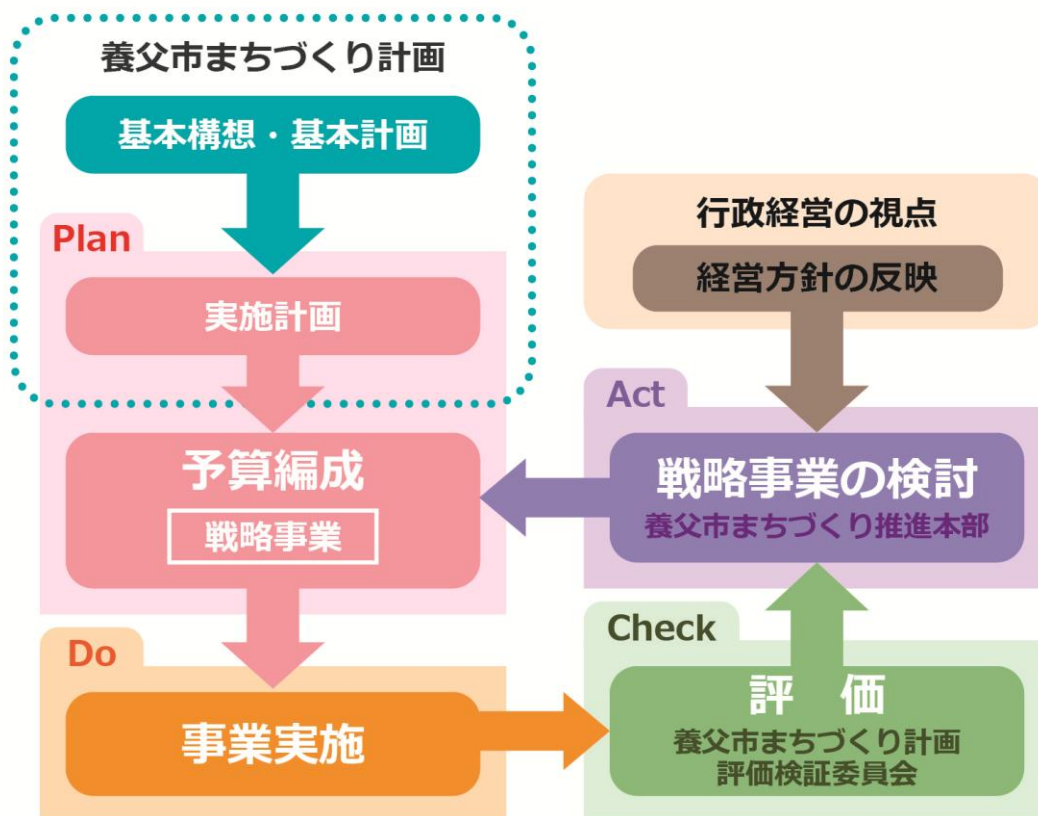
基本計画部分の検証作業も実施することで、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」としての要件を満たすものとしします。

### 取組評価を明確化する指標づくり

実施計画に記載する個別事業の取組評価を明確化、他事業と比較しやすくするため、数値目標として活用する指標について、定点的な指標を用いることとします。この指標を用いることで継続的な評価を行うことができるようにします。

また、これら定点的な指標を集めた指標集を作成することで、現時点での養父市の状況を把握する統計データの集約を行っていきます。

本計画で掲げる基本構想や基本計画を実現するために、以上のような推進体制で取り組んでいきます。その過程において毎年PDCAサイクルを回し、効率の良い行政運営が行える体制を構築していきます。





## 個別計画について

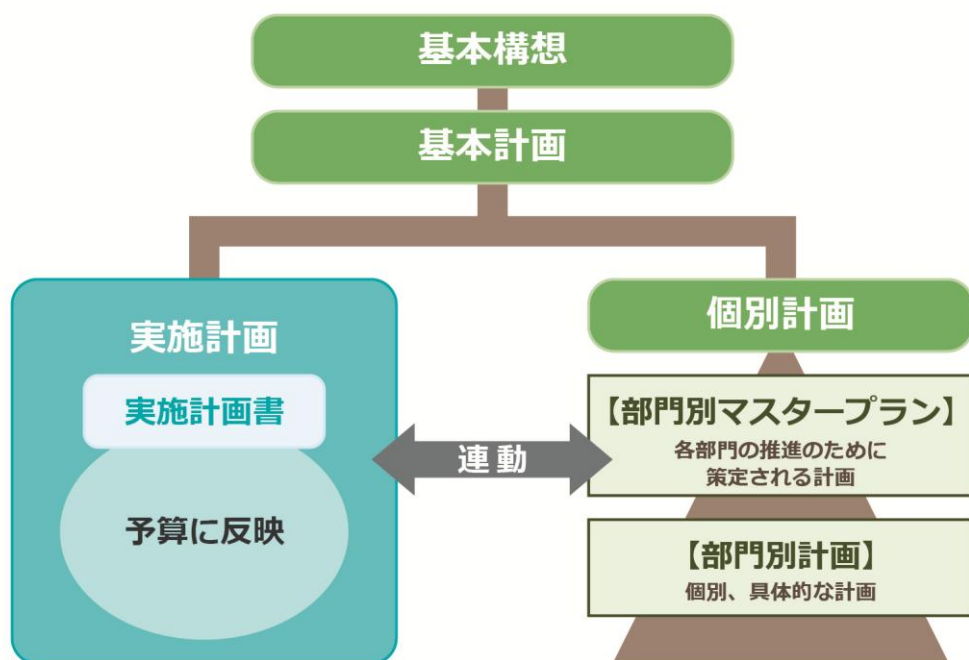
個別計画は、基本計画の各政策に紐づく部門別計画のことを指します。各部署が策定している部門別計画の中でも、各部門の推進のために策定される計画があり、この計画に沿った形でさらに個別、具体的な計画等が策定されています。これら計画を整理した上で、養父市まちづくり計画（基本構想）を頂点とした計画の体系化を行っていきます。

## 実施計画について

実施計画は、毎年度予算編成時に作成する実施計画書のことを指します。実施計画書については、大きく分けて以下の項目を配しています。

項目	内容
事業の基本的項目	事業名のほかに、紐づけられる政策や主要施策、個別計画、予算費目や事業実施期間等を記載します。また、SDGsの17のゴールに関連する項目を入れ、SDGsを地域課題に落とし込んで考える「ローカライズ」を意識させていきます。
事業目的	事業の対象者、実施する背景、目的を記載します。
事業内容/数値目標	事業の概要を記載します。また、戦略事業や一般事業に関しては、それぞれ数値目標を設定します。
年次計画と財源	事業の年次計画と財源内訳について記載します。

毎年度の予算編成時に個別計画の内容を反映させることを目的に、実施計画書には当該事業が位置付けられる個別計画を明記します。







# 資料編

## 資料1 養父市まちづくり計画・第1期基本計画の評価

### 第1期基本計画の目標達成状況

「市民（アクティブに自分らしく暮らすまち）」では、「移住相談件数」や「自分らしい暮らし」に関する指標で良好な成果が見られます。ただし、「心を豊かにする文化芸術」では指標を測定できていないという課題が残っています。

「地域（つながりを力に、開かれたコミュニティがあるまち）」では、「子育てを支えてもらっていると感じる親の割合」で良好な成果が見られます。一方、「人工林の間伐実施面積」や観光に関する指標で基準値以下であり、産業面で課題が残っています。

「公共（様々な「公共」（主体）が地域を豊かにするまち）」では、「市内総生産額」で良好な成果が見られます。一方、SNS等での情報発信や子どもや高齢者の見守りに関する指標では基準値以下であり、課題が残っています。

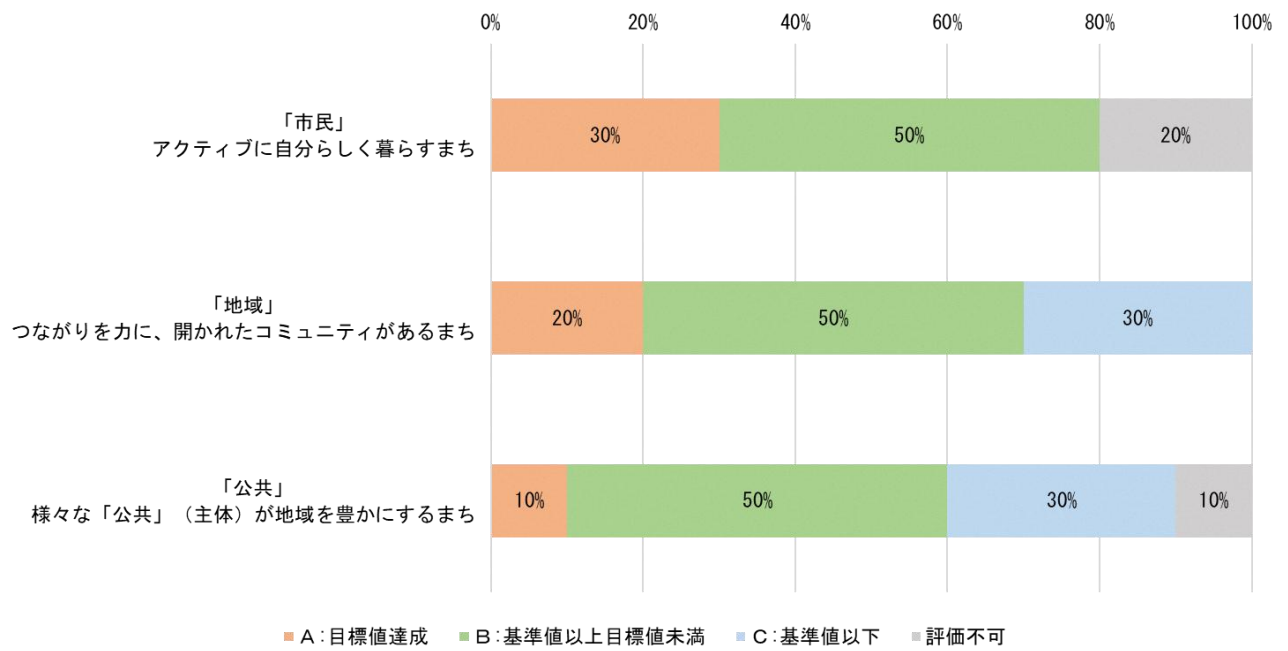
#### 【成果指標の達成状況】

柱	施策	評価指標	達成状況
「市民」：アクティブに自分らしく暮らすまち		転入者数	B
		養父市に住み続けたいと思う人の割合	B
	能力や個性を最大限発揮できる暮らし（移住定住・多様な暮らし方）	移住相談件数	A
		自分らしい暮らしがあると思う人の割合	A
	生涯健康的に過ごすことができる環境（保健・医療・福祉）	要支援・要介護認定者の認定率（65歳以上）	B
		日ごろから大笑いしている人の割合	B
	学びがあふれる教育環境（教育・生涯学習）	特色のある学校教育の実施校の割合	B
		学ぶことが楽しいと感じる児童生徒の割合	A
	心を豊かにする文化芸術（文化・教養）	後継者育成に取り組む文化団体の割合	—
		養父市の文化・芸術活動に魅力を感じる子どもの割合	—
「地域」：つながりを力に、開かれたコミュニティがあるまち		出生数	B
		暮らしの中で異なる世代の人とつながり・つきあいがある人の割合	B
	つながりが支える子育て環境（子育て）	婚姻数	B
		子育てを支えてもらっていると感じる親の割合	A
	誰一人取り残さない地域コミュニティ（地域組織）	地域担当チーム職員の活動延べ人数	B
		孤独を感じている人の割合	B
	次代を拓く農林業の推進（農林業）	人工林の間伐実施面積	C
		環境負荷の低減に取り組んでいる農家の数	A
	多彩な人々によって創出される地域資源（観光・交流）	観光入込客数	C
		観光客などの訪問客が増えていると思う人の割合	C
「公共」：様々な「公共」（主体）が地域を豊かにするまち		新たな雇用創出数	C
		若者が希望を持てる養父市だと思ふ人の割合	C
	地域の価値を生かした仕事づくり（価値支援・経済支援）	市内総生産額	A
		市内で働いている人の割合	B
	デジタル技術の積極的な活用（情報社会）	デジタル化によって世界に羽ばたいた企業の数	—
		SNS等で積極的に養父市の魅力を情報発信している人の割合	C
	次代に引き継ぐ豊かな自然環境（環境推進）	市有施設の温室効果ガス排出量	B
		自然環境への影響を考えて何かしらの行動をしている人の割合	B
	安全安心なまちづくりの推進（生活基盤）	犯罪の発生件数	B
		意識して地域の子どもたちや高齢者等の見守りを行っている人の割合	B

※達成状況「—」：基準値が不明であり評価不可だったもの



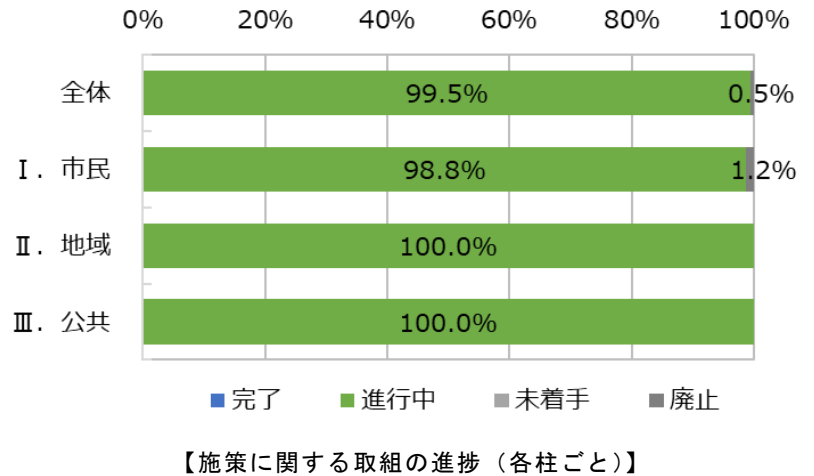
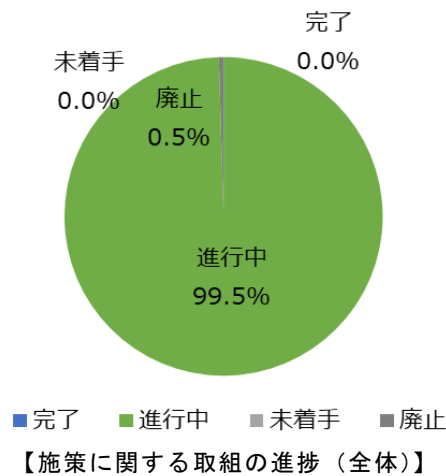
柱	成果指標の達成状況(令和6年度時点)				
	A 目標値達成	B 基準値以上 目標値未満	C 基準値以下	評価不可	計
「市民」 アクティブに自分らしく暮らすまち	3	5	0	2	10
「地域」 つながりを力に、開かれたコミュニティがあるまち	2	5	3	0	10
「公共」 様々な「公共」(主体)が地域を豊かにするまち	1	5	3	1	10
全体	6	15	6	3	30



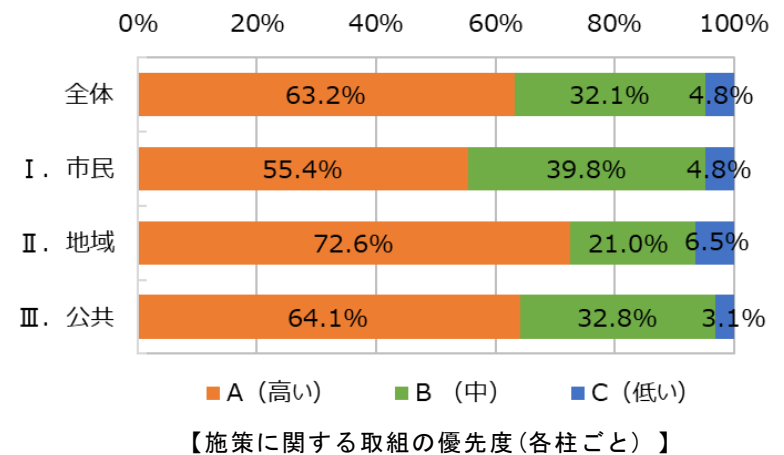
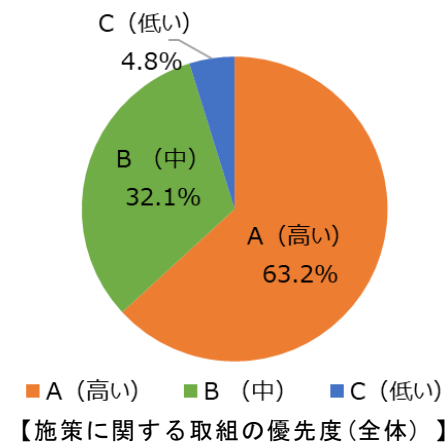
※評価不可：計画策定時に算出方法が定まっていない施策

## 第1次基本計画の取組状況（内部評価）

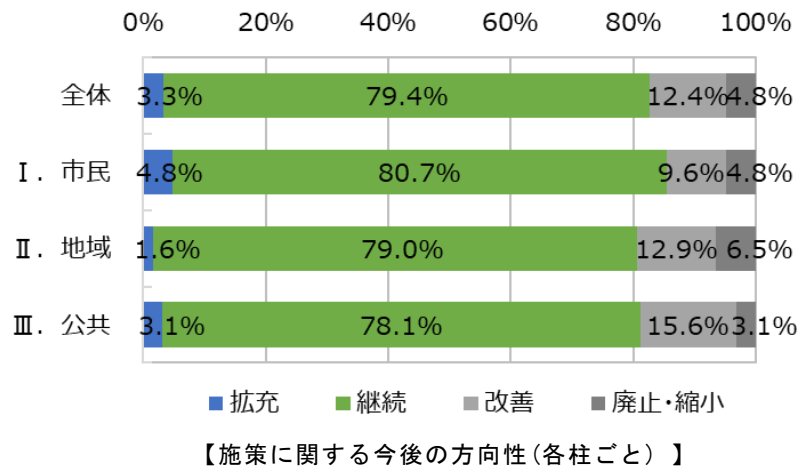
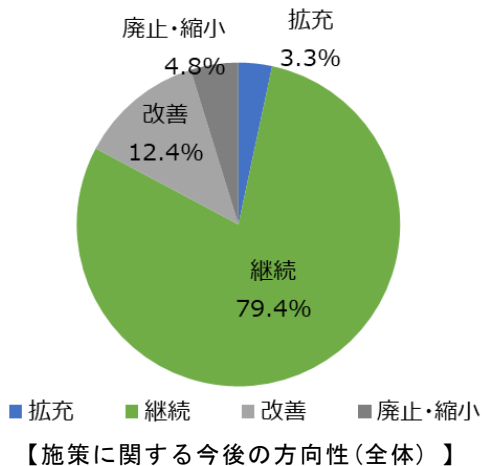
施策に関する取組の進捗状況としてはほぼ全ての取組が進行中です。



施策に関する取組の優先度としては、約6割で優先度が「高い」と評価されています。また、施策の柱ごとに見たときに、「地域」（つながり、コミュニティ）に関する取組で優先度の高さが示されています。



施策に関する今後の方向性として、「継続」が約8割、「改善」が約1割という結果です。主に、地域や公共に関わる取組として、観光・交流、経済支援、環境推進で「改善」という方向性が示されています。





## 資料 2 養父市の特徴

### 位置・地勢

養父市は、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、面積は約 422.91 km<sup>2</sup>と広大で、県全体の5.0%、但馬地域の19.8%を占めています。市東部を一級河川・円山川が南北に流れ、その支流である八木川沿いには八鹿、関宮地域、大屋川沿いには養父、大屋地域が形成されています。市西部には兵庫県最高峰の氷ノ山（標高1,510 m）をはじめ妙見山、ハチ高原、若杉高原といった山岳・高原地帯が連なり、ブナ、ミツガシワの群生地や、国指定天然記念物のイヌワシの生息地となっているなど豊かな自然環境が残されています。気候は日本海側特有の多湿で豪雪な気候となり、四季折々の自然の変化が魅力です。

### 交通

養父市は、京都と山陰地方を結ぶ国道 9 号、姫路方面と山陰方面を結ぶ国道 312 号が通っており、但馬地域内外を結ぶ広域道路ネットワークの要衝となっています。さらに、北近畿豊岡自動車道には「八鹿氷ノ山 IC」と「養父 IC」を備えており、京阪神方面へのアクセスが向上しています。同道は北側の延伸も進んでおり、2020 年には日高豊岡南道路（但馬空港 IC～日高神鍋高原 IC）が、2024 年には豊岡道路（豊岡出石 IC～但馬空港 IC）が開通し、コウノトリ但馬空港や公立豊岡病院方面への移動もより円滑になりました。鉄道は円山川に沿って JR 山陰本線が走り、特急列車を利用すれば京阪神から八鹿駅まで約 2 時間で結ばれています。空路では、コウノトリ但馬空港から大阪（伊丹）空港まで約 35～40 分で結ばれています。市内交通は全但バスの路線網が地域の基幹・生活交通を担っており、大阪や神戸と八鹿駅などを結ぶ高速バスも発着しています。また、2018 年から運行開始した自家用有償観光旅客等運送事業（やぶくる）では、タクシーが不足している地域間などに限定されているものの地域住民が登録ドライバーとなり自家用車で市民や観光客の移動を行うなど、多様な交通手段の整備が進められています。

### 歴史

養父市の歴史は、縄文時代にさかのぼり、鉢伏高原や杉ヶ沢高原などでは、約 1 万年前の縄文時代の住居跡や土器・石器が発見されています。さらに、古墳時代には、箕谷 2 号墳から西暦 608 年を示す戊辰年の鉄刀が出土し、兵庫県最古の漢字を刻んだ遺物として注目されています。奈良・平安時代には山陰道が通り、郡部駅と八木駅が置かれていました。戦国時代には、豊臣秀吉が八木藩を置き、八木の町は養父郡を治める城下町として発展しました。この時期、明延銅山や中瀬金山も開発されました。江戸時代には、出石藩や生野代官所、村岡山名家などの支配となりました。街道や舟運などが発達して但馬地域の交通の要衝となり、養蚕技術の発達によって生糸商も栄え、地の利を得て但馬牛取引の拠点ともなりました。明治時代には、紡績工場などの進出により商工業が発展し、1909 年（明治 42 年）には明延鉱山でスズが発見され、日本一のスズ鉱山として知られるようになり、昭和 62 年の閉山まで地域経済を支えました。現在、明延鉱山は「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の構成文化財として日本遺産に認定され、探検坑道や一円電車の体験乗車などの観光資源として活用されています。また、昭和 40 年代からは、氷ノ山・鉢伏高原などの一帯がスキー場として開発され、京阪神や中国四国圏におけるアウトドアスポーツや合宿活動の拠点となっています。

## 合併の経緯

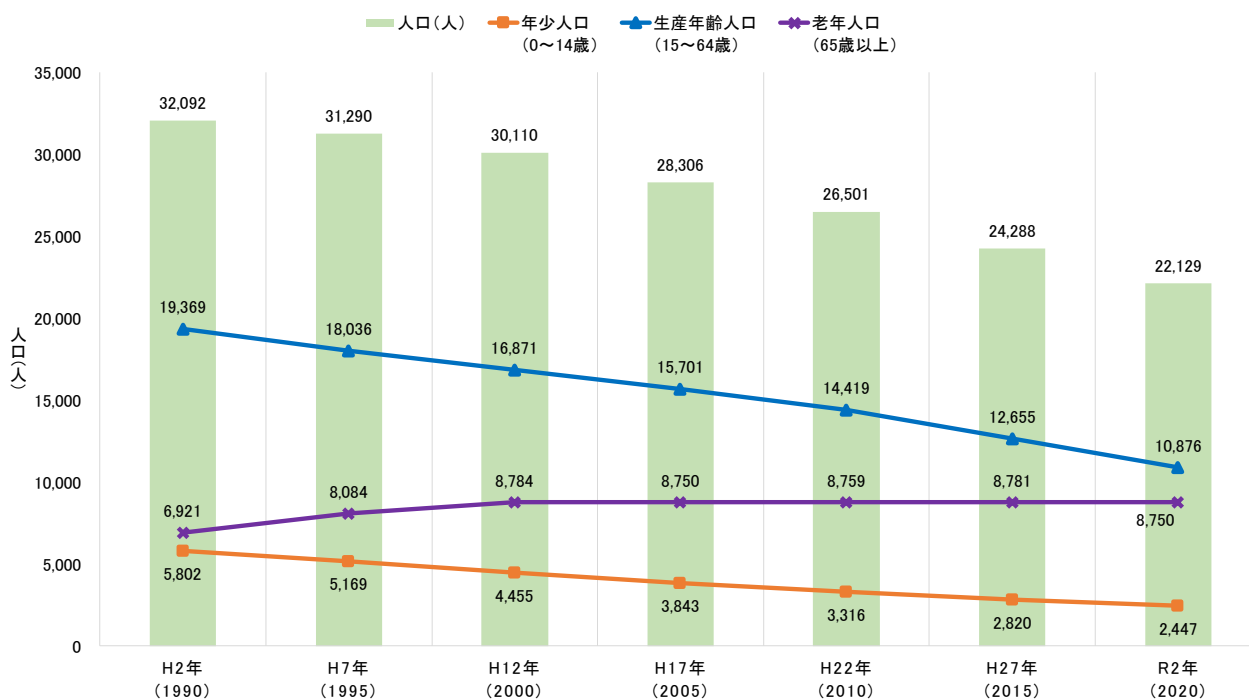
2004年（平成16年）4月1日に旧養父郡4町（八鹿町、養父町、大屋町、関宮町）が合併し養父市が誕生しましたが、下表のとおり昭和30年代前半の合併を経て現在に至っています。

町名	年月日	種別	旧市町村名
八鹿町	昭和30年2月 1日	合 体	八鹿村、高柳村、伊佐村、宿南村（大字赤崎、浅倉を除く地域）
養父町	昭和31年9月30日 昭和32年3月31日 昭和34年4月 1日	合 体 名称変更 境界変更	広谷村、建屋村（明神町となる） 明神町と旧養父町が合併 和田山町の一部（和田山町大字堀畑）
大屋町	昭和30年3月31日	合 体	口大屋村、大屋村、南谷村、西谷村
関宮町	昭和31年8月 1日	合 体	熊次村、関宮村

## 人口の動向

養父市における人口の推移を見てみると、全体の人口は、1990年の32,092人から2020年には22,129人へと、約1万人減少しています。

年齢別に見ると、0～14歳の年少人口は一貫して減少しており、1990年の5,802人から2020年には2,447人と、半数以下にまで落ち込んでいます。一方で、15～64歳の生産年齢人口も同様に減少傾向にあり、1990年の19,369人から2020年には10,876人と、大きく減少しています。これに対して、65歳以上の老年人口は増加傾向にあり、1990年の6,921人から2020年には8,750人と、唯一増加しています。ただし2000年以降は横ばいの傾向となっています。



【人口の推移】

出典：令和2年国勢調査

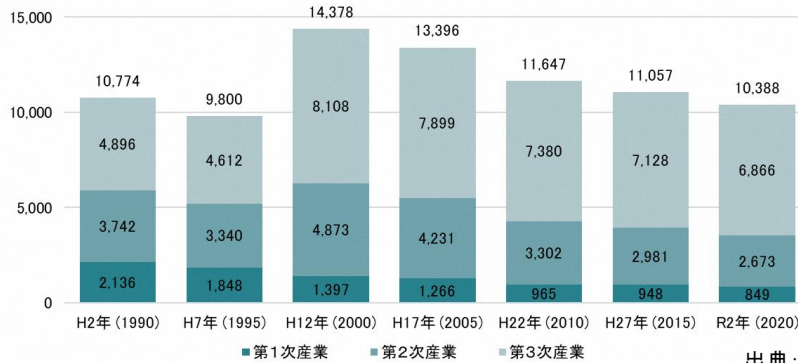


## 産業の動向

全体の就業者数は2000年（平成12年）に14,378人とピークを迎えた後、徐々に減少し、2020年（令和2年）には10,388人となっています。第1次・第2次産業の就業者が大幅に減少する一方で、第3次産業が比較的多くを占め続けています。

養父市の市内産業における全体の従業者数は8,165人です。「製造業」や「卸売業・小売業」に多くの従業者がいる一方で、「農林漁業」や「鉱業、採石業、砂利採取業」、「複合サービス事業」など特定産業に特化している傾向が見られます。

また、2000年から2020年にかけて養父市の販売農家数と農業就業人口が大幅に減少しており、販売農家数は20年間で半数以上が減少しています。



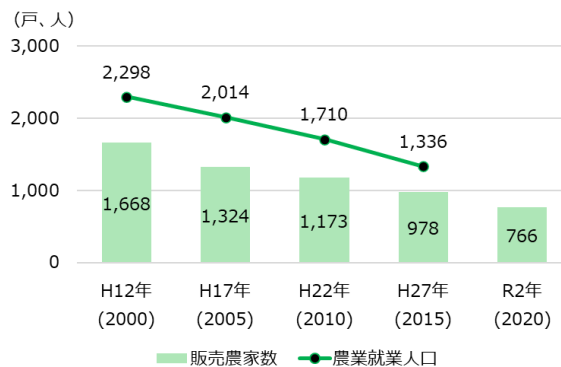
出典：2020年農林業センサス

【産業（大分類）別就業者数の推移】



出典：令和3年経済センサス

【産業別従業者と産業特化係数（令和3年）】



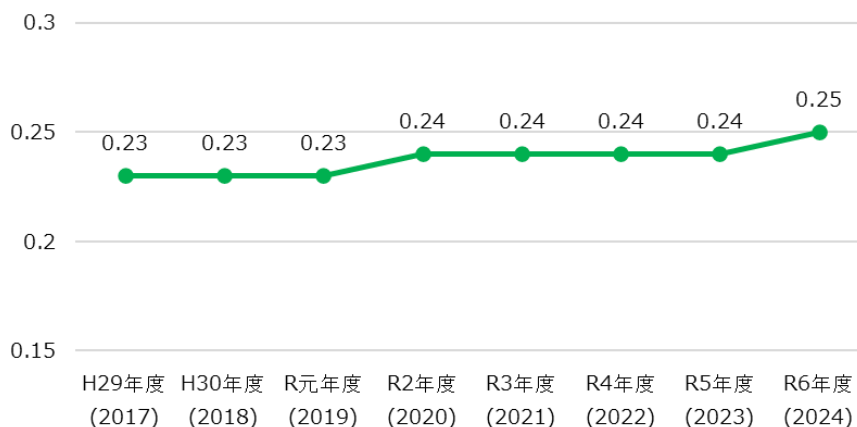
【農家数・農業就業人口の推移】

出典：2020年農林業センサス

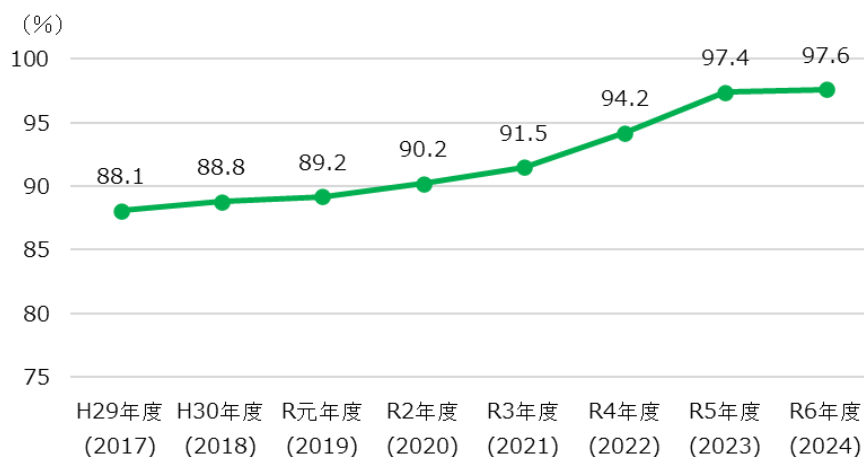
## 財政の状況

養父市の財政力指数は、県内最低レベルであり、H29年度からR6年度にかけて0.23～0.25と大きな変化は見られません。経常収支比率は年々上昇し、88.1%から97.6%に達しており、財政の柔軟性が低下していることがうかがえます。実質公債費比率も7.2%から8.5%へ上昇し、特にR3年度以降は増加傾向となっています。

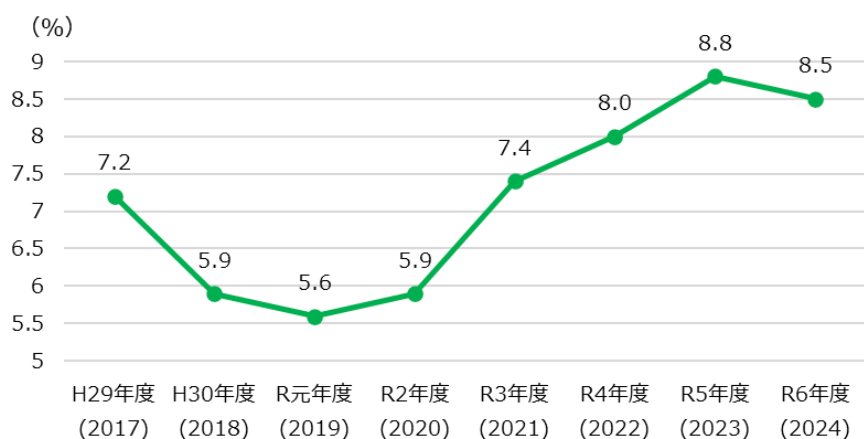
これらの指標から、歳入に占める固定的経費や公債費の割合が増えていることが読み取れます。今後は自由に使える財源が減少し、財政運営の硬直化が懸念される状況です。



【財政力指数の推移】



【経常収支比率の推移】



【実質公債費比率】

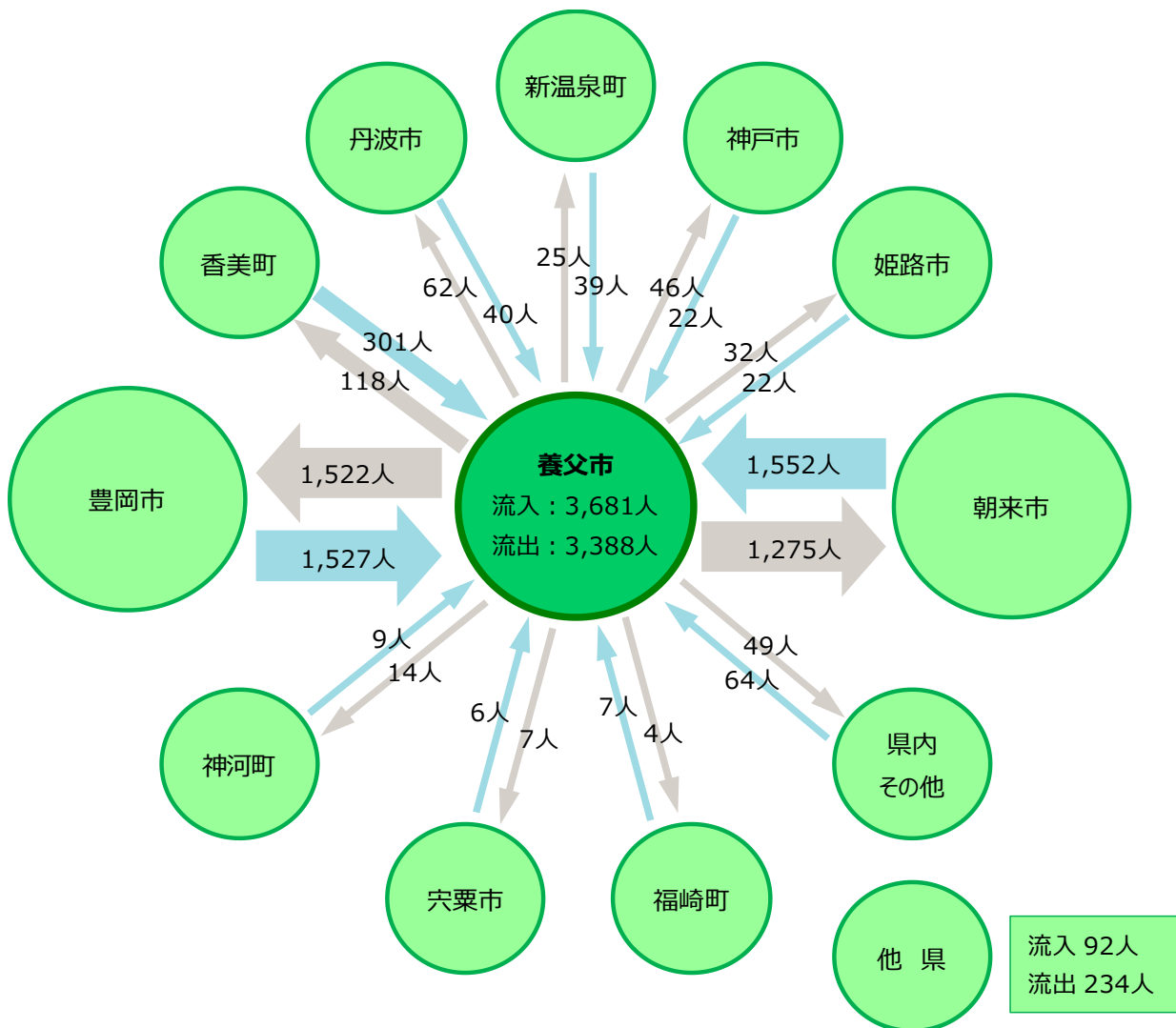
出典：総務省 地方公共団体の主要財政指標



## 生活圏からみた養父市の位置付け

市内への流入元、市外への流出先はいずれも豊岡市、朝来市が第1位、第2位となっています。養父市と2市間で通勤・通学する人は、流入流出とも8割以上を占めており、朝来市、豊岡市とのつながりが特に強いことが分かります。

住民の生活は、市町単位の行政圏を越え、周辺の市町とも密接な関係をもっています。ひとつの自治体単独の取組には限界があるため、これからは住民の生活実態やニーズに応じて、但馬地域全体が連携し、行政圏の垣根を越えた取組が求められています。



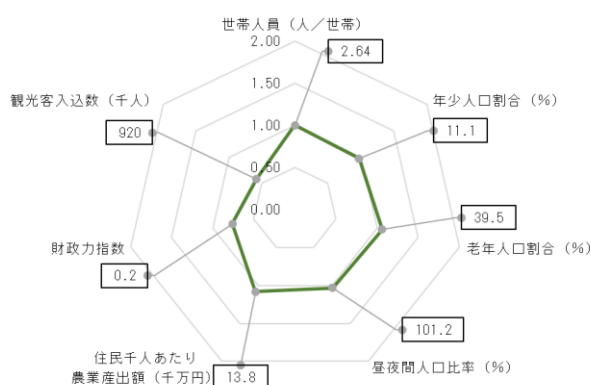
【通勤・通学の状況】

出典：令和2年国勢調査

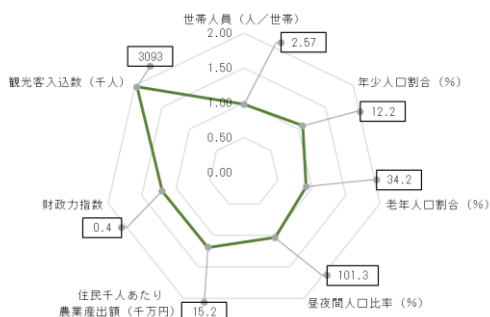
豊岡市、朝来市、香美町、新温泉町の但馬内各市町と養父市の各分野における指標を比較したところ、養父市の各指標の値のうち、平均値を上回った項目は、老年人口割合、住民千人あたり農業産出額となっています。他市と比較した場合、特に財政力指数と観光客入込数が低い値となっています。以下にレーダーチャートを示します。

■レーダーチャートについて  
 ○各指標データについて、比較対象市町の平均値を求め、その平均値に対する各市町のポイント（比率）を表示している。（各指標の平均値を1.0とした場合の、各市町の比率）  
 ○グラフは、外側に行くほどポイントが高く、相対的に「良い評価」であることを示す。  
 ○グラフ中の枠内の数値は各実数値を示す。

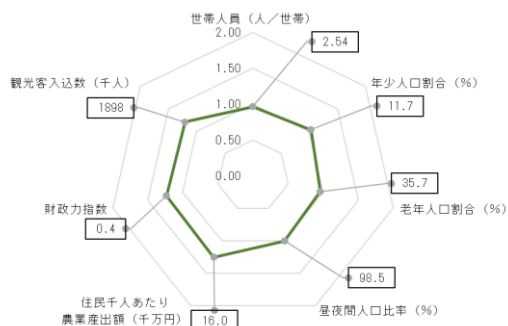
養父市



豊岡市



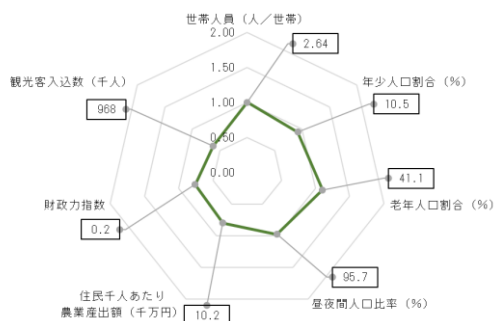
朝来市



香美町



新温泉町



【養父市と近隣市町のレーダーチャート】

出典：令和2年国勢調査、令和5年度主要財政指数、令和5年度兵庫県観光客動態調査報告書  
 令和5年市町村別農業産出額（推計）より算出



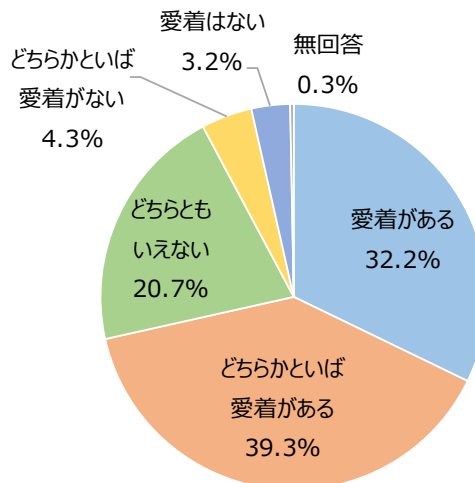
### 資料3 市民の意向・ニーズ

#### アンケート（令和6年市民アンケート）

令和6年度に実施したアンケートから市民意向・ニーズを整理しました。

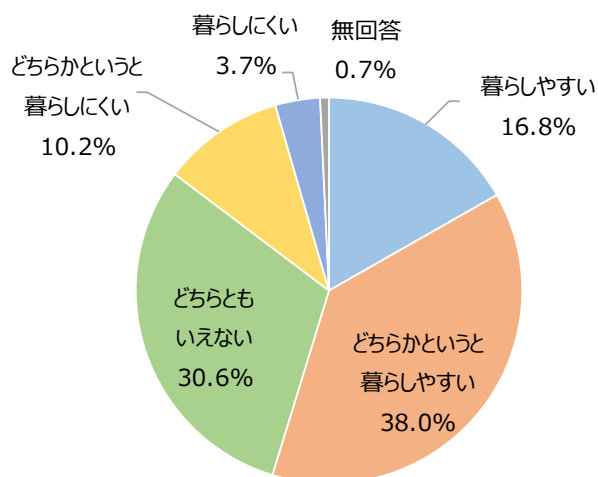
#### 愛着

市民の愛着について（N=1,361）



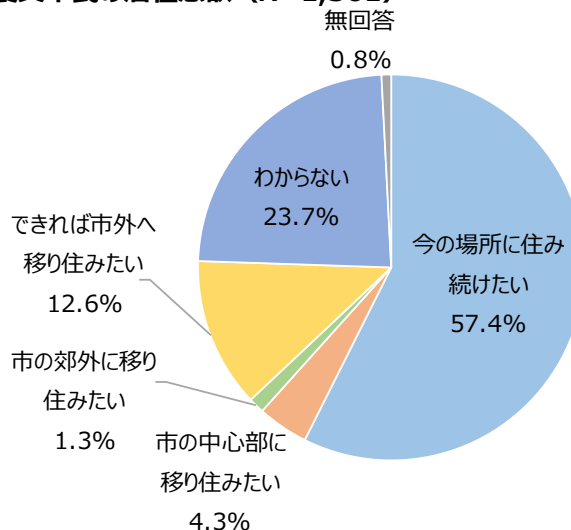
#### 暮らしやすさ

養父市民の暮らしやすさ（N=1,361）



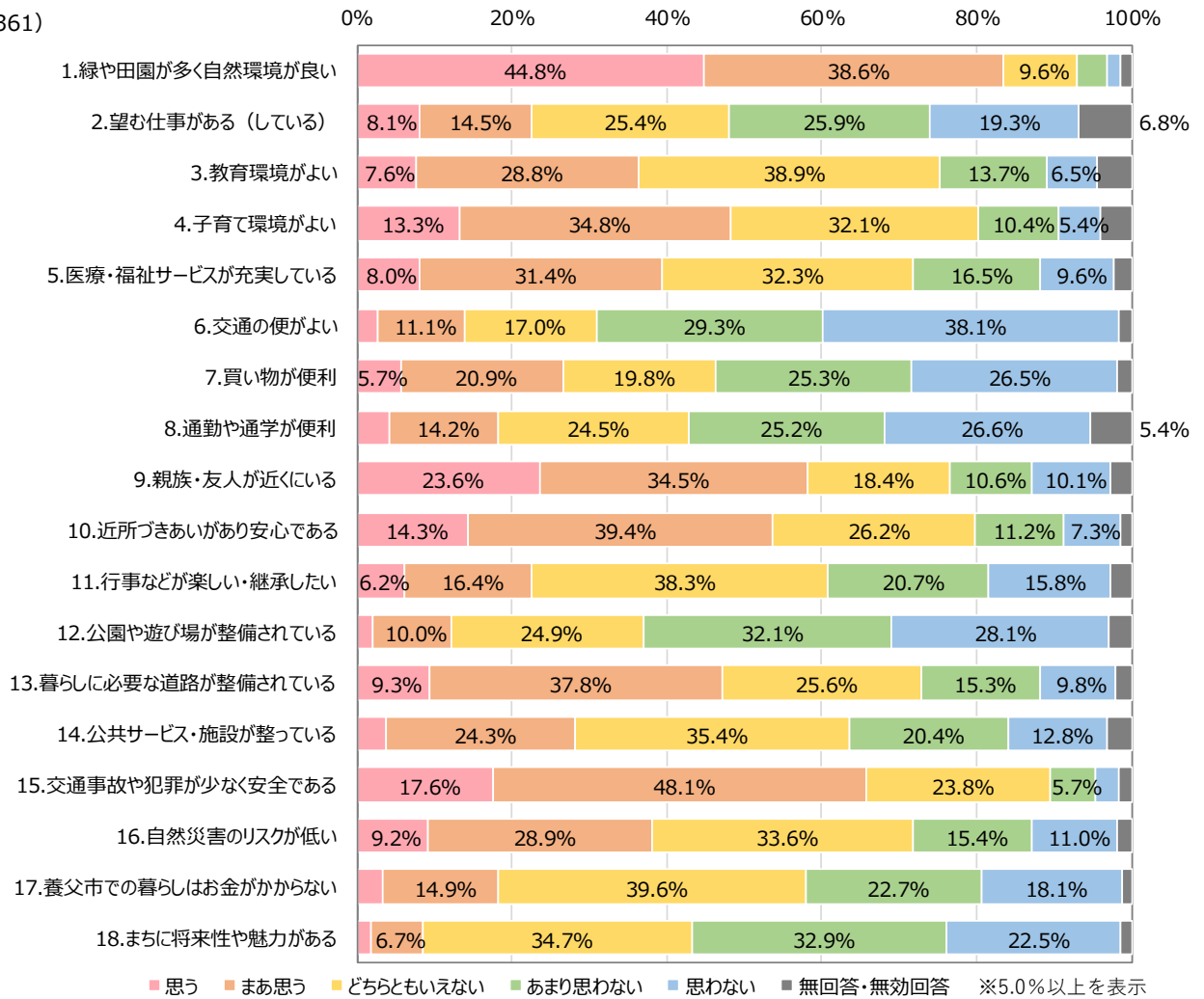
#### 定住意向

養父市民の居留意欲（N=1,361）



# 暮らしやすさの満足度

(n=1,361)



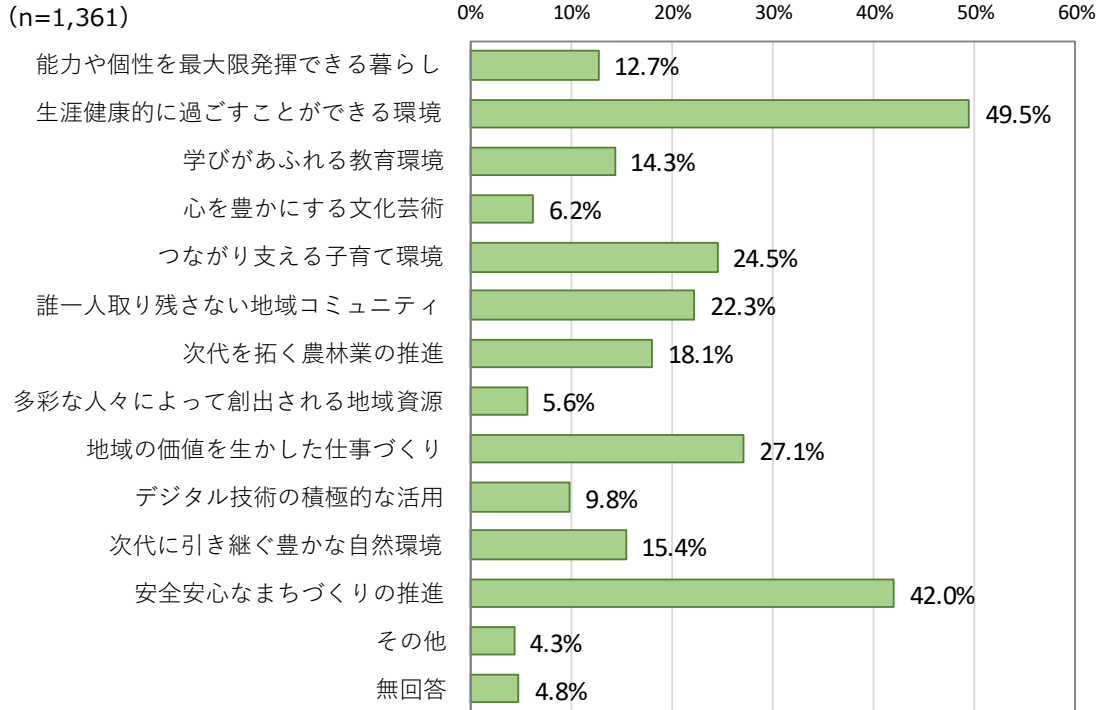
項目	平均点
1. 緑や田園が多く自然環境が良い	6.1
15. 交通事故や犯罪が少なく安全である	3.6
9. 親族・友人が近くにいる	2.5
10. 近所づきあいがあり安心である	2.1
4. 子育て環境がよい	2.0
13. 暮らしに必要な道路が整備されている	1.1
3. 教育環境がよい	0.9
5. 医療・福祉サービスが充実している	0.6
16. 自然災害のリスクが低い	0.5
14. 公共サービス・施設が整っている	-0.7
11. 行事などが楽しい・継承したい	-1.2
2. 望む仕事がある (している)	-1.7
17. 養父市での暮らしはお金がかからない	-1.9
7. 買い物が便利	-2.3
8. 通勤や通学が便利	-2.8
18. まちに将来性や魅力がある	-3.4
12. 公園や遊び場が整備されている	-3.7
6. 交通の便がよい	-4.4

※「思う」10点、「まあ思う」5点、「どちらともいえない」0点、「あまり思わない」-5点、「思わない」-10点として平均点を算出



## まちづくりの重要度

### 【全体】



### 【年代別】

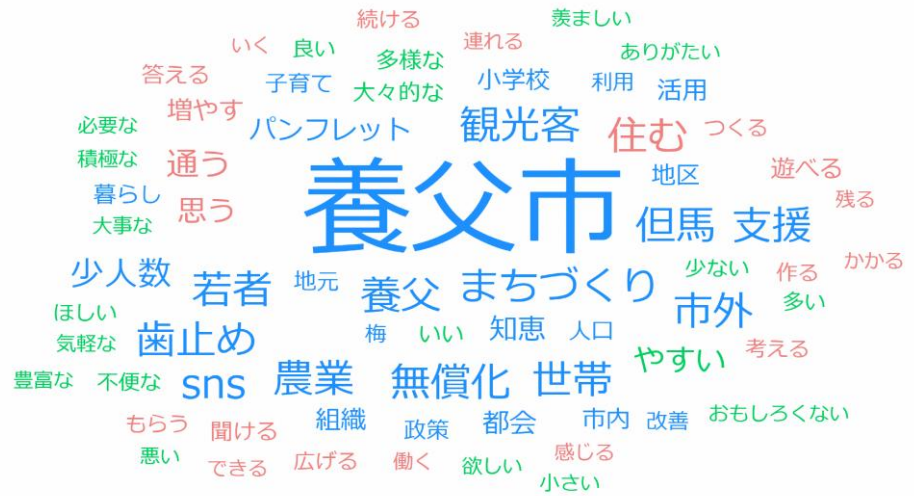
単位：%

	10歳代 高校生	10歳代 高校生 以外	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代 以上	無回答	総計
能力や個性を最大限発揮できる暮らし	19.0	28.6	19.0	16.8	16.3	11.5	14.2	6.6	9.9	10.8	22.2	12.7
生涯健康的に過ごすことができる環境	31.0	57.1	34.9	35.0	40.0	49.5	55.7	55.4	57.1	62.2	66.7	49.5
学びがあふれる教育環境	23.8	14.3	22.2	30.7	18.8	19.8	8.9	8.5	6.8	2.7	0.0	14.3
心を豊かにする文化芸術	14.3	14.3	11.1	4.4	6.3	5.2	5.7	5.2	9.3	0.0	0.0	6.2
つながり支える子育て環境	28.6	42.9	34.9	46.0	31.3	21.9	22.7	17.0	14.3	18.9	11.1	24.5
誰一人取り残さない地域コミュニティ	23.8	14.3	11.1	12.4	15.0	16.1	22.7	31.7	31.7	21.6	44.4	22.3
次代を拓く農林業の推進	16.7	0.0	14.3	11.7	18.8	15.6	17.7	24.0	18.0	24.3	11.1	18.1
多彩な人々によって創出される地域資源	7.1	0.0	4.8	2.9	9.4	5.7	7.8	4.1	3.7	2.7	0.0	5.6
地域の価値を生かした仕事づくり	9.5	28.6	41.3	23.4	30.6	30.2	30.5	19.6	28.6	27.0	33.3	27.1
デジタル技術の積極的な活用	16.7	42.9	15.9	16.8	16.9	15.1	6.4	5.2	1.9	0.0	0.0	9.8
次代に引き継ぐ豊かな自然環境	28.6	14.3	9.5	9.5	16.3	11.5	15.6	19.6	16.1	13.5	22.2	15.4
安全安心なまちづくりの推進	28.6	28.6	28.6	30.7	33.1	39.6	48.6	50.6	44.7	51.4	44.4	42.0
その他	2.4	0.0	6.3	6.6	6.9	8.9	2.8	1.5	1.9	2.7	11.1	4.3

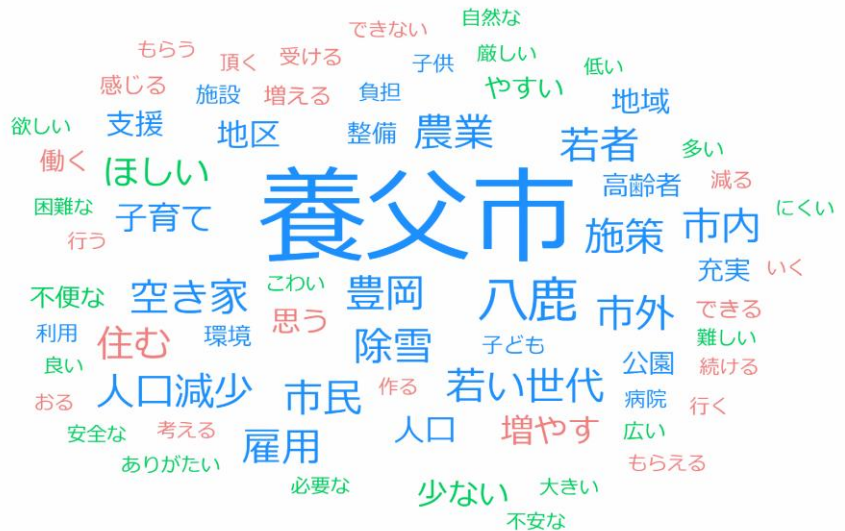
## 自由意見

自由記述欄で挙げられたキーワード（テキストマイニング）を整理しました。

### 【10～20 歳代】



### 【30～50 歳代】



### 【60 歳以上】



- 名詞
- 動詞
- 形容詞

※自由記述を AI テキストマイニング by ユーザーローカルにより分析し、キーワード画像を作成。  
※スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさと色で図示しています。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなりますが、「言う」や「思う」など、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低めになります。  
※テキストマイニングとは、アンケートや SNS などの膨大なテキストデータから、隠れたパターンや有益な情報を自動的に抽出・分析する技術です。



## 市民ワークショップ

### 住み続けたいまちづくりに大切なこと・未来の養父市の姿

参画と協働のまちづくりを推進するとともに、政策立案の参考にするため、市民ワークショップを開催しました。

ワークショップでは、市民アンケートの設問「養父市のまちづくりに必要だと考えるもの」で上位となった次の4項目をテーマとしました。テーマごとに養父市における「良いところ」「惜しいところ」を挙げて改めて現状を認識しました。さらに、「良いところを生かすため」「惜しいところを改善するため」に何ができるか意見を共有し、それらの意見を踏まえ、理想とする「未来の養父市の姿」を考えました。

テーマ	分野
ア 健康で安心して暮らせる養父市をつくる ～生涯健康な暮らしを目指して～	健康促進のための地域活動
	医療・福祉の充実
	社会的処方
イ 子育てしやすいまちへ ～未来を支える子どもたちの環境づくり～	若者世代の居住・定住
	出産、子育ての充実
	未来の子どもたちの環境
ウ 地域の魅力と仕事の創出 ～地元資源を生かした雇用促進～	雇用、働く若者支援
	企業誘致、商業施設誘致
	地域産業・経済の活性化
エ 暮らしやすさとつながりを育むまち ～移動とコミュニティの充実～	公共交通、利便性の向上
	地域コミュニティの充実
	住宅支援

### <ワークショップの様子>



## 【概要】

	1日目	2日目	3日目	4日目
日時	令和7年 7月12日（土） 9:30～12:00	令和7年 7月12日（土） 13:30～16:00	令和7年 7月26日（土） 13:30～16:00	令和7年 8月3日（日） 9:30～12:00
場所	関宮公民館 2階研修室	大屋市民センター 2階大会議室	子育て・移住サポ ートセンター （旧八鹿幼稚園） 2階多目的ホール	養父公民館 2階A研修室
参加 者数	14名	21名	19名	20名
協議 テーマ	まちをどんな姿にできるだろう？ ～みんなでつくろう理想の養父市～			
目的	話し合いで出されたまちの姿やキーワードを基本構想や基本計画の各施策に反映させる。			
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4つのテーマについて地域に対して感じていることを共有する。</li> <li>・より良いまちにするため、市民が養父市での暮らしを満喫するためのアイデアを話し合う。</li> <li>・「できること」を考え、今後の行動や仕組みづくりにつなげる。</li> </ul>			

## 【実施内容】

### ①開会

### ②まちづくり計画の趣旨説明

③市長挨拶：施政方針、施策別主要事業について説明（今年度の主要事業や市長が各分野で特に力を入れたいと思う施策などを中心に説明し、ワークショップの趣旨を共有）

### ④ワークショップの内容説明

### ⑤ワーク

(1) 自己紹介

(2) 養父市の各テーマにおける「良いところ」「惜しいところ」をフセンに書き込み、班で共有し模造紙に貼り付ける

(3) 「良いところ」「惜しいところ」の意見を似た意見ごとにグルーピング

(4) 「良いところ」を生かすには？「惜しいところ」を改善するには？を考え、それを実現するために自分たちができる具体策を班で話し合い、各テーマに関する「こうなってほしい未来の養父市」を考え、発表まとめシートに書き込む

(5) 発表

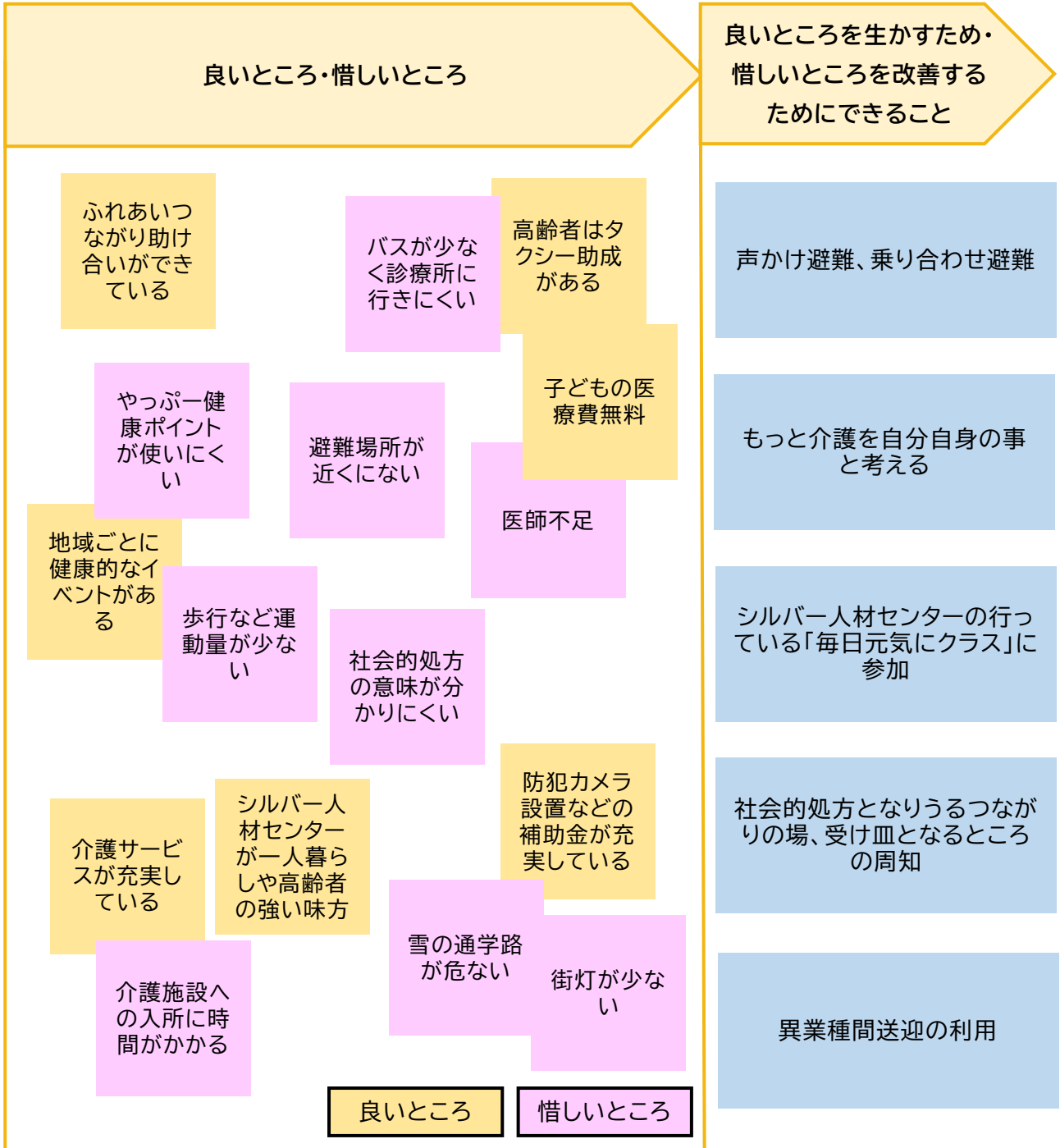
### ⑥閉会



【意見整理】

前述の4項目のテーマごとに意見を整理しました。

## I 健康で安心して暮らせる養父市をつくる



### こうなっていきたい未来の養父市の姿

- 手を取り合って、みんなが安全安心に年を重ねられるまち
- 共助を生かした地域のつながりで健康と安心のまちに
- ゆるつなで楽しく元気にくらす（※「ゆるつな」・・・ゆるいつながり）
- 健康寿命 100 歳のまち養父市

## Ⅱ 子育てしやすいまちへ

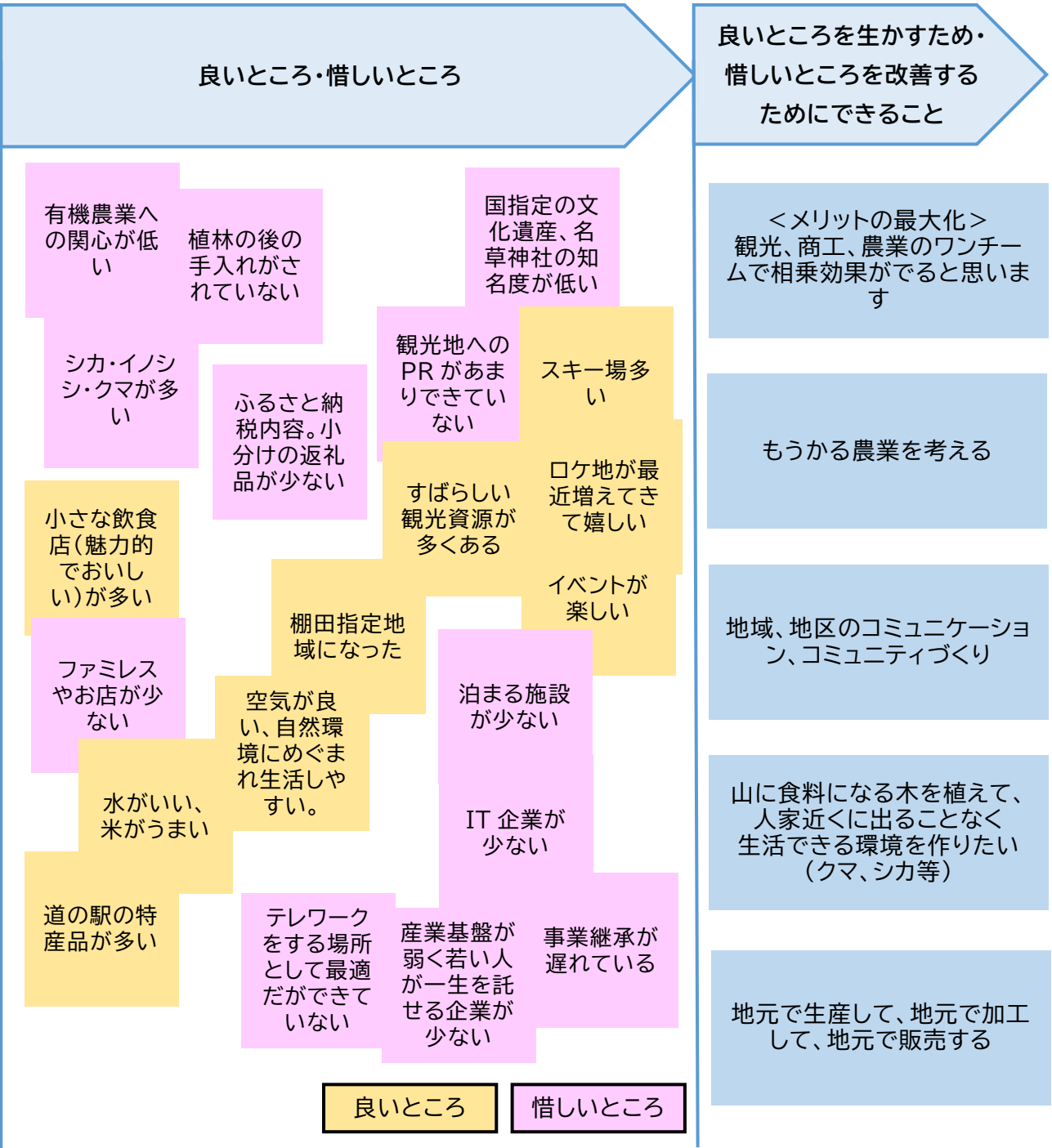


### こうなってほしい未来の養父市の姿

- マイナス1歳から墓地(墓場)までワンチーム
- ワンチームで人間関係づくり
- 子育てノンストレスなまち養父市
- みんなが教育・子育ての後継者に！

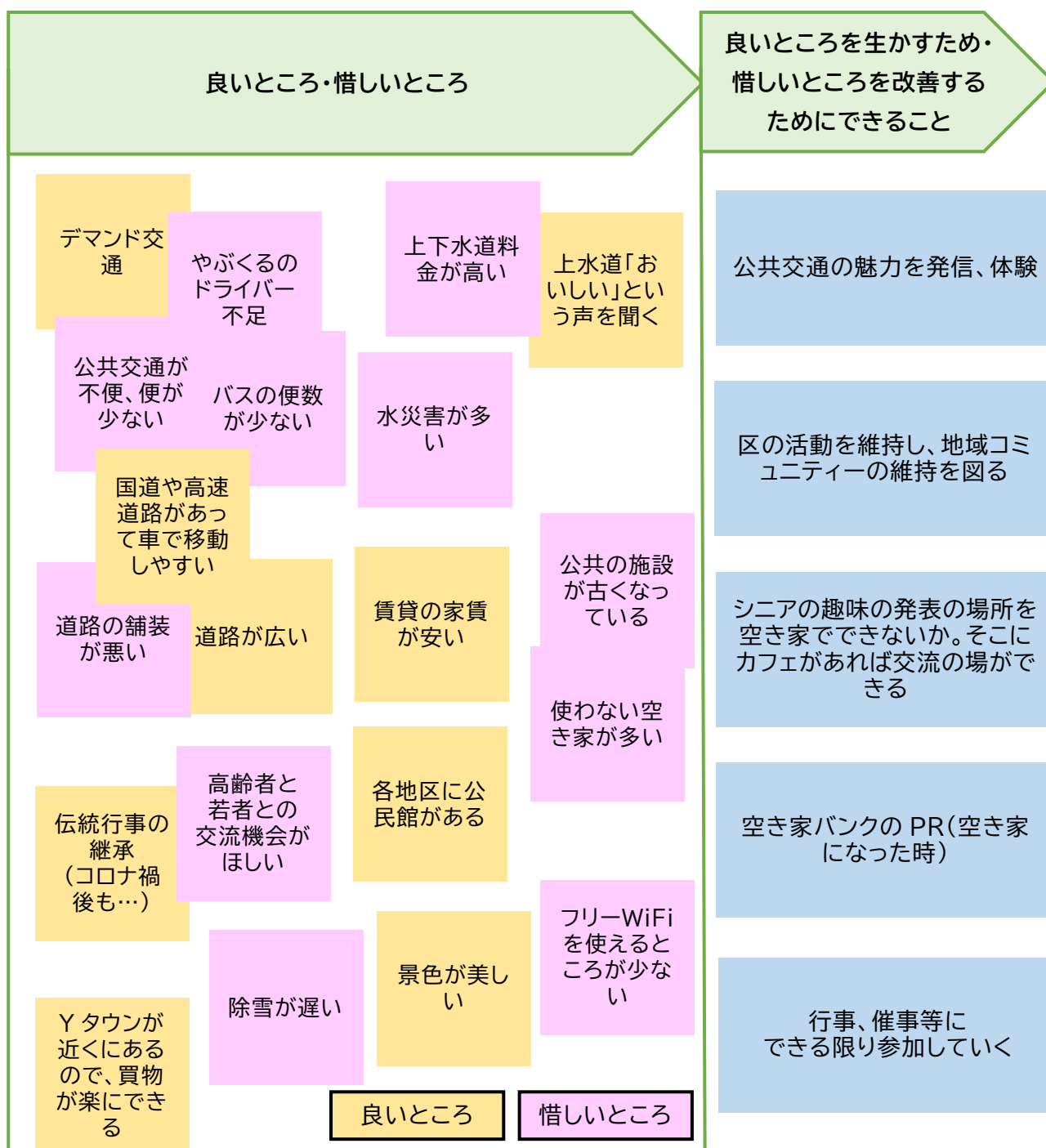


### Ⅲ 地域の魅力と仕事の創出



- こうなってほしい未来の養父市の姿**
- 養父市のブランドを生かした地域産業の発展
  - 小さくてもキラリと光るまち養父市
  - 農商工観元気な ONETEAM
  - 養父市らしい地域資源を生かした新たな挑戦

## IV 暮らしやすさとつながりを育むまち



### こうなしてほしい未来の養父市の姿

- 人とのつながりで創る住み続けたいまち
- 帰る居場所がある幸せ。つながる力がある養父
- DX化とアクセス向上により、住みやすく、交流しやすい養父市
- 人にもまちにも楽しく優しく寄り添うまちづくり



## 資料4 養父市を取り巻く状況の変化と課題

【地方創生】人口減少への認識の変化

### 人口減少と地方創生

- 令和2年（2020年）の我が国の人口は1億2,614万人であり、平成20年（2008年）をピークに減少へ転じ、令和52年（2070年）には9,000万人を下回ると推計されています。
- 地方創生の取組開始から10年が経過しましたが、依然として人口減少や東京圏への一極集中の傾向に大きな変化はなく、引き続き人口減少対策の強化が求められています。
- 出生数の減少が続く一方、高齢者は令和7年（2025年）に団塊の世代が後期高齢者となり、当面は増加が見込まれ、少子高齢化の進行は一層深刻化すると予測されます。

養父市の人口は約2万人ですが、毎年約500の人口が減少していく中、高齢化率は40%を超えており、これまで以上に効果的な対策を実行する必要があります。

【地方創生】若者や女性にも選ばれる地域

### 地域コミュニティ機能の低下・つながりの希薄化

- 人口減少と高齢化の進行により、地域コミュニティの維持が難しくなっています。市民同士の支え合いや地域行事など、つながりや支えあいを感じられていますが、担い手の減少や活動の継続負担が増す中で、将来的な「共助」の仕組みの弱体化が懸念されています。
- 地域の祭りや伝統行事、農地や山林の管理など、地域資源を守りつなぐ取組が続けられている一方で、交流機会が減少する地域も見られ、地域の絆を次世代へ引き継ぐ仕組みづくりが求められています。

地域活性化には地域コミュニティ（市民）・行政の連携、協働が重要です。地域づくりに関するビジョンをより明確にし、急速に進行する人口減少や地域の担い手不足に対し、経済・教育・生活基盤など幅広い分野において抜本的な対策に取り組む必要があります。

### 地域資源を生かした魅力的な選ばれるまちづくり

- 養父市には、豊かな自然環境、地域ごとの歴史・文化資源、生業と結びついた個性的な景観など、多様な地域資源があります。
- 養父市では、移住・定住促進のための多様な取組が進められています。相談窓口設置や、地域住民との交流イベント、空き家バンクの活用などの施策により、移住者の増加や地域活性化が期待されています。

地域資源を生かし、地域外の人々を惹きつけ、また、市民の郷土への誇りや愛着を育むなど「住みたい・訪れたい」と思うような魅力的なまちづくりを推進する必要があります。また、移住・定住や子育て世代の定着に向けては、次代を担う子どもたちが地域の中で健やかに成長できるよう、恵まれた自然環境や地域資源等を生かしながら子育て・教育環境の充実を図っていく必要があります。

【地方創生】都市と地方が互いに支え合い、人材の好循環の創出

## 多様な価値観に寄りそう幸せの実現

- 近年、変化する環境や多様な状況に対応する必要性が高まっており、多様性（ダイバーシティ）やウェルビーイング（心身の健康や幸福）の考え方がこれまで以上に重要視されています。
- 働き方改革の一環として、ワーク・ライフ・バランスの確保や女性の社会参画の促進が求められています。
- インバウンド需要の拡大に伴い、外国人観光客との交流を通じ、多様な価値観と共に生きる社会の実現が必要となります。

養父市の幸せの度合いは 7.6 と全国平均以上であり年々増加傾向です。今後も多様な価値観を尊重した市民の幸せの実現が求められます。

【地方創生】人口減少が進行する中でも「稼げる」地方

～新結合による高付加価値型の地方経済（地方イノベーション創生構想）～

## 地域産業の活性化

- 人口減少や社会情勢の変化により、養父市の産業は甚大な影響を受けています。農業では耕作放棄地が増加しており、今後も担い手の不足等によりこの傾向が続くと予想されます。地域産業活性化のために豊かな自然環境や農地、文化遺産等も含めた既存の地域資源を活用するとともに、新たな価値の創出に取り組む必要があります。
- 北近畿豊岡自動車道周辺の国道 9 号沿道地域では八鹿氷ノ山 IC 開通後、商業施設等の立地により一定の開発が進んでいます。今後も地域活力増進のため産業振興に取り組むほか、無秩序な市街地拡大の抑制や生活環境の悪化を防止するため、土地利用のコントロールに取り組む必要があります。

既存産業が地域で存続していける環境の整備や、養父市のポテンシャルを生かした新たな産業の振興が課題となります。また、産業振興と合わせて市民の雇用拡大を図り、安定した生活基盤の確保が求められています。

【地方創生】AI・デジタルなどの新技術の徹底活用

## デジタルトランスフォーメーション（DX）への期待

- 生成 AI など急速に進展するデジタル技術を背景に、DX 推進による「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」、「人々に豊かさをもたらす Society5.0 の実現」などが期待されています。
- 養父市は、行政手続のオンライン化や地域情報のデジタル発信、ICT を活用した教育、地域づくりなどの取組が進められています。

引き続き、デジタルの力を活用して地域課題の解決や生活利便性の向上を図ることが期待されます。



【その他視点からの課題】

## 頻発する自然災害と防災・減災

近年、地震や豪雨、台風など、大規模な自然災害が頻発しています。これに伴い、防災や減災に対する意識が高まっており、地域コミュニティが連携した効果的な防災体制の整備が重要です。

## 交通インフラの整備と広域連携

災害時の交通ネットワーク確保、広域連携の医療体制確立、産業振興を目的として高速交通網の整備が進められています。地域間の連携が強化されることで、広域的な経済活動や交流の促進が期待されます。

## 社会福祉ニーズの多様化

核家族化や単身世帯の増加、地域コミュニティの縮小等により、行政に求められる福祉ニーズは多様化・複雑化しています。高齢者や障がい者に限らず、全ての市民の暮らしを支えるため、地域や関係機関が協働した重層的な支援体制の構築が必要です。

## 教育環境の変化と地域連携

少子化や子育て世代の働き方の変化により、学校や地域における教育環境は大きく変化しています。子どもたちの多様な体験や学習機会を確保し、家庭・学校・地域の連携を強化して地域全体で教育環境を整えることが求められています。

## 公共施設の老朽化と財政運営

過去に建設された公共施設や社会インフラの老朽化が進む一方で、市の財政状況は依然として厳しい状況にあります。長期的な視点に立ち、公共施設の更新、統廃合、長寿命化などを計画的に進め、財政負担の軽減と最適な施設配置を実現することが重要です。

## 資料5 用語解説

### 【数字、アルファベット】

#### ○AI（人工知能）

Artificial Intelligence の略で、人間のような知的な活動（学習、推論、判断、言語理解など）をコンピュータで行う技術の総称で、なかでも学習した膨大なデータを基に、テキスト、画像、動画、音楽などの新しいコンテンツを自動的に生成する AI 技術のことを生成 AI という。

#### ○DX

Digital Transformation のことで、自治体や企業がデジタル技術を活用し、業務プロセスやビジネスモデル、組織文化そのものを抜本的に変革する取組のこと。

#### ○ICT（情報通信技術）

Information and Communication Technology の略で、コンピュータ技術に「通信」による情報の共有・伝達を組み合わせた技術の総称。

#### ○KPI（重要業績評価指標）

Key Performance Indicator の略で、最終目標を達成するための中間プロセスを数値で管理する指標のこと。

#### ○PDCAサイクル

計画（Plan）・実行（Do）・評価（Check）・改善（Act）を繰り返し、継続的に改善する仕組みのこと。

#### ○SNS

Social Networking Service の略で、オンライン上で個人がプロフィールを作成し、写真や動画、テキスト投稿を通じて友人や趣味の合う人々とリアルタイムに交流・情報共有できるサービスのことで、LINE、X（旧 Twitter）、Instagram、Facebook などがある。

#### ○5G（第5世代移動通信システム）

高速・大容量、低遅延、多数同時接続を特徴とする次世代の通信規格のこと。

### 【あ行】

#### ○空き家バンク

自治体が主体となって地域の空き家・空き地情報を収集し、売りたい・貸したい所有者と、買いたい・借りたい利用希望者をマッチングさせる登録制度のこと。

#### ○井堰（いせき）

主に農業用水を確保するため、河川を横断して水をせき止め、水位を上げて水路へ引き込む構造物のこと。

#### ○ウェルビーイング

身体的、精神的、社会的に良好で満たされた状態を指す概念で、単に病気でないだけでなく、自分らしく充実して持続的に幸せを感じられる状態のこと。



## 【か行】

### ○関係人口

特定の地域と継続的かつ多様に関わる地域外の人材のこと。

### ○機能別消防団員

個人の能力や事情に合わせて「特定の地域・時間帯での消火活動や役割」に限定して参加する消防団員制度で、消防団のOB団員などが、従来の基本団員を補完し、地域防災力の強化に寄与する。

### ○経常収支比率

自治体の財政構造の硬直化や弾力性を示す指標で、市税や地方交付税などの「経常的な収入」が、人件費・扶助費・公債費といった「毎年度必ずかかる経費」にどれくらい使われているかを示した割合のこと。

### ○経費回収率

主に下水道事業において汚水処理にかかる費用（経費）を使用料収入でどの程度賄えているかを示す指標のこと。

### ○高生産性林業

高性能林業機械を活用し、伐採から搬出までの工程を分業・機械化することで、少人数で効率的かつ安全に大量の木材を生産する林業のこと。

## 【さ行】

### ○再生可能エネルギー

太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、自然界のプロセスで持続的に補充され、枯渇しないエネルギー源のこと。

### ○自家用有償観光旅客等運送

バス・タクシー事業が成り立たない地域で、その地域における輸送手段の確保が必要な場合に、必要な安全上の措置をとった上で、自治体やNPO法人等が、自家用車を用いて提供する運送サービスのこと。

### ○実質公債費比率

自治体が抱える借金（地方債）の返済額が、実質的な収入（標準財政規模）に占める割合を示す、財政健全化を判断する指標のこと。

### ○自伐型林業

山林所有者や個人が、小規模な機械を使って持続的に森林を管理・経営する林業のこと。

### ○ジビエ

フランス語で「狩猟によって得られた野生の鳥獣肉」のこと。シカやイノシシなどが代表的で、脂肪が少なくヘルシーな高タンパク・栄養豊富な食材として知られている。

## ○社会的処方

薬などの医療的処置に加え、医師や相談員が患者を地域の趣味サークル、ボランティア、交流の場といった「社会とのつながり」につなげることで、孤独や生活課題を解決し、健康とウェルビーイングを向上させること。

## ○小水力発電

河川や農業用水などの水の流れ（流量・落差）を利用する1,000kW（1MW）以下程度の小規模な発電設備の総称のこと。

## ○ゼロカーボンシティ

2050年までにCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の排出量を森林などによる吸収量と差し引いて実質ゼロにすることを旨と宣言した自治体のこと。

## 【た行】

### ○体感治安

人々が主観的・感覚的に感じている「治安の良し悪し」の認識のこと。

### ○多面的機能支払交付金制度

農業者や地域住民が共同で農地・水路・農道の草刈りや泥上げなどの維持管理、資源保全活動を行う際に、国・自治体が費用を交付金として支払う制度のこと。

### ○地域おこし協力隊

都市部から過疎地域等の自治体に移住し、1～3年間、地域協力活動（特産品開発、PR、農業支援など）を行いながら定住・定着を目指す、総務省の制度のことで、隊員は自治体の委嘱を受け、報酬を得ながら地域活性化に取り組む。

### ○地域計画

地域農業経営基盤強化促進計画のことで、地域の農業を将来へ継続させていくために、地域でよく話し合い、農地を利用しやすいよう、次世代へ引き継いでいくことを目的として作成する計画のこと。

### ○中山間地域等直接支払交付金制度

傾斜地などの農業生産条件が不利な地域（中山間地域）において、耕作放棄地の防止や多面的機能（洪水防止・景観保全等）の維持を目的に、集落単位で5年間の協定を結び、農地管理を行う農業者に面積に応じ、国・自治体が交付金として支払う制度のこと。

### ○デジタルデバイド

パソコンやスマートフォン、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を使いこなせる人と、そうでない人の間に生じる「情報・機会の格差」のこと。

### ○デマンド交通

利用者からの予約に応じて運行する予約制の乗合タクシー・バスのことで、決まった時刻表や路線を持たずにエリア内を柔軟に移動する公共交通のこと。



### ○読書バリアフリー

視覚障がい、発達障がい、肢体不自由などの理由で文字を読むのが困難な人が、音声、点字、大活字、電子書籍などの適切な形式で、障がいのない人と同じように本を楽しみ、知識を得られる環境を整備すること。

### ○特定空家

倒壊の危険、衛生上の有害、景観損害など、放置すると周囲に著しい悪影響を及ぼすため「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき自治体が認定した空き家のこと。

## 【な行】

### ○二次交通

空港や駅などの交通拠点（一次交通）から、観光地や宿泊施設、最終目的地までの移動手段のこと。バスやタクシーなどがある。

### ○日本型直接支払制度

多面的機能支払交付金、中山間地域等直接支払交付金、環境保全型農業直接支払交付金の3つの交付金制度を併せた名称のこと。

## 【は行】

### ○パートナー制度

同性婚が法制化されていない日本で、性的マイノリティのカップルの関係を自治体が公的に証明する制度のこと。

### ○搬出間伐

林内の樹木の過密化を防ぐために間引いた木（間伐材）を、山から運び出して木材市場などで材木やチップ材として販売・有効利用すること。

### ○ベンチャー企業

独自の技術や革新的なアイデアを武器に、新しい市場やサービスを創出する成長過程の小・中規模の企業のこと。

### ○ボランティアキャリア登録

個人のボランティア活動経験、スキル、専門知識などをデータベース等に登録し、それらを生かせるボランティア募集やプロジェクトとマッチングしやすくする仕組みや活動のこと。

## 【や行】

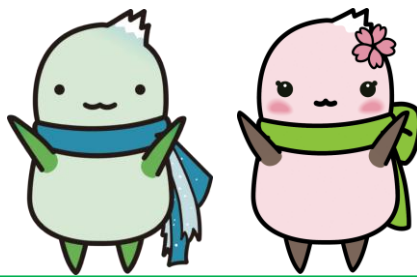
### ○有機JAS

農薬や化学肥料などの化学物質に頼らず、自然界の力で生産された農産物、加工食品、飼料、畜産物等に付与される農林水産大臣が定めた規格のこと。

## 【ら行】

### ○リンクワーカー

孤独や生きづらさを抱える人と、地域の居場所・ボランティア活動などの「社会資源」をマッチングし、つながりをつくる支援者のこと。



---

発行：養父市

編集：経営企画部 経営政策・国家戦略特区課

令和8年4月 策定

〒667-8651 兵庫県養父市八鹿町八鹿1675

TEL 079-662-7602 FAX 079-662-7491

URL <https://www.city.yabu.hyogo.jp>

---